

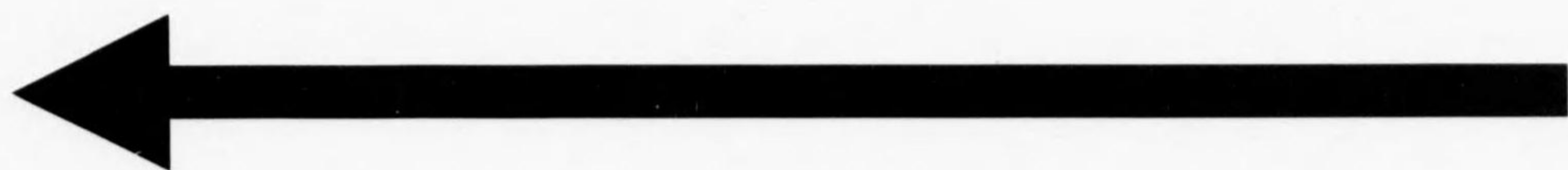
676.41-To85ウ



1200500750474



始



912
86

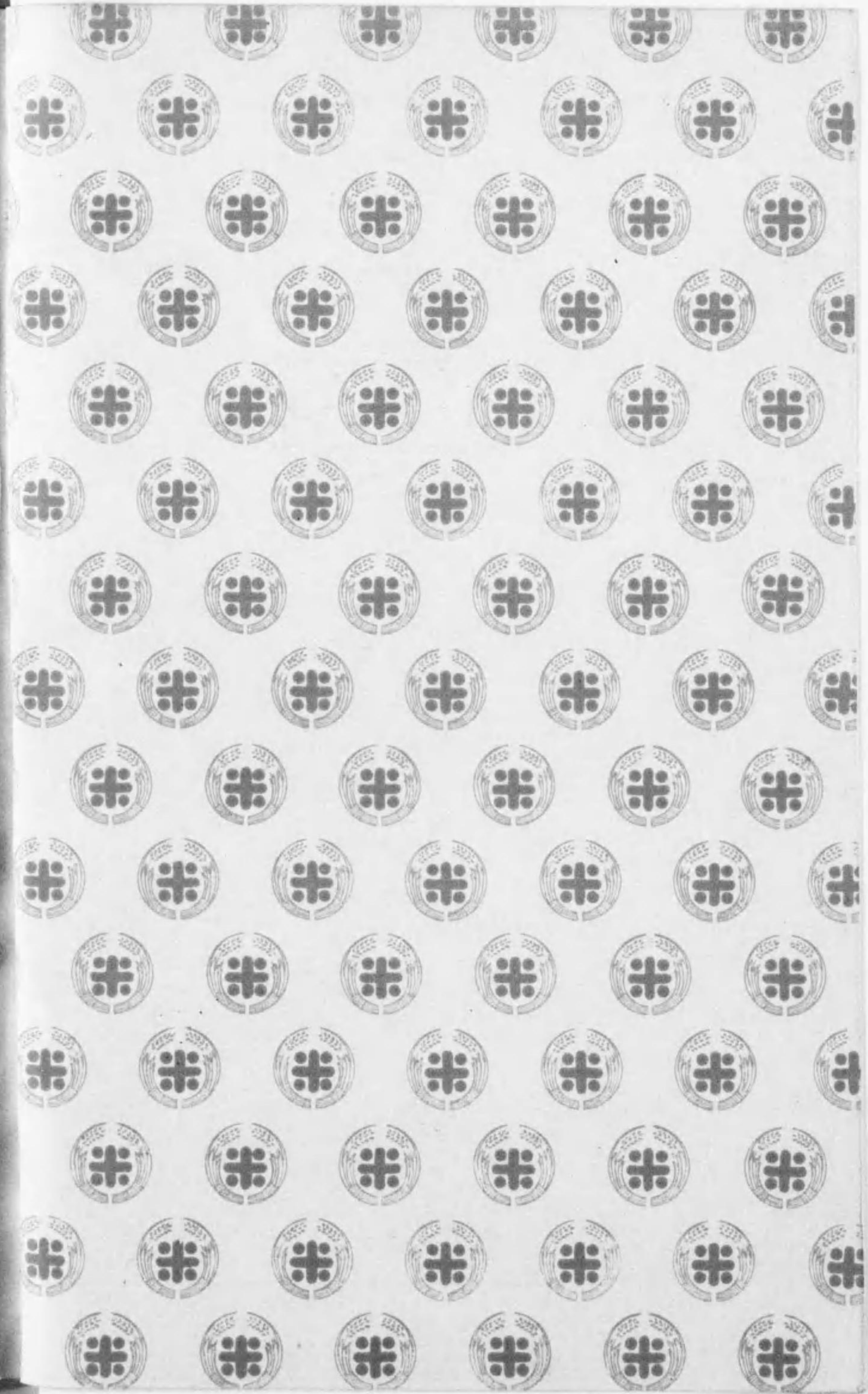
676.41
T085

豐橋米穀取引所誌





米穀取引所誌



第四拾四聯

免許狀

愛知縣渥美郡豊橋町

杉田權次郎

外三十名

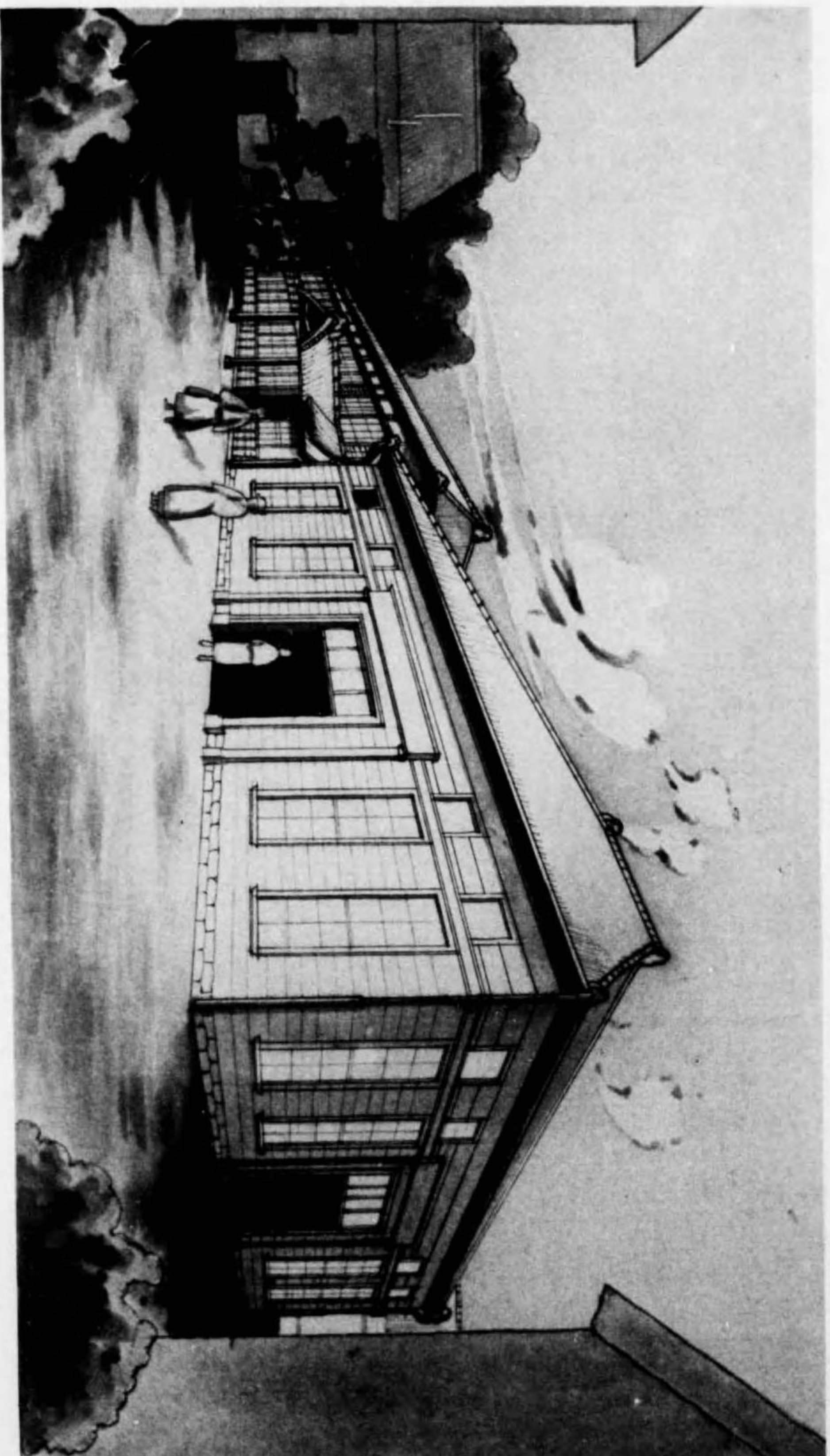
林武會社 豊橋米麥取引所

設立ヲ免許ス

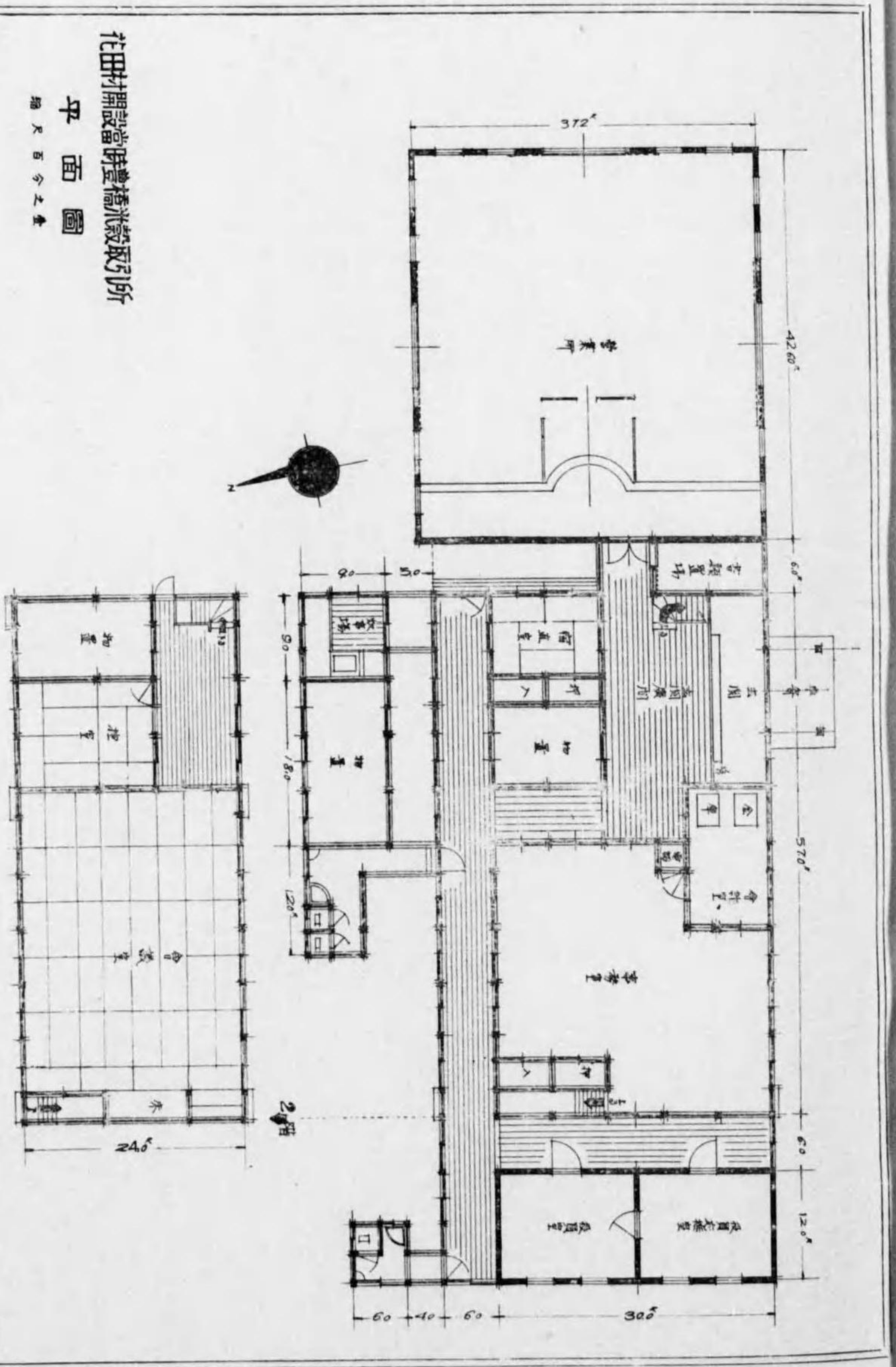
明治廿七年三月廿七日

農商務大臣ノ爵樓本武揚

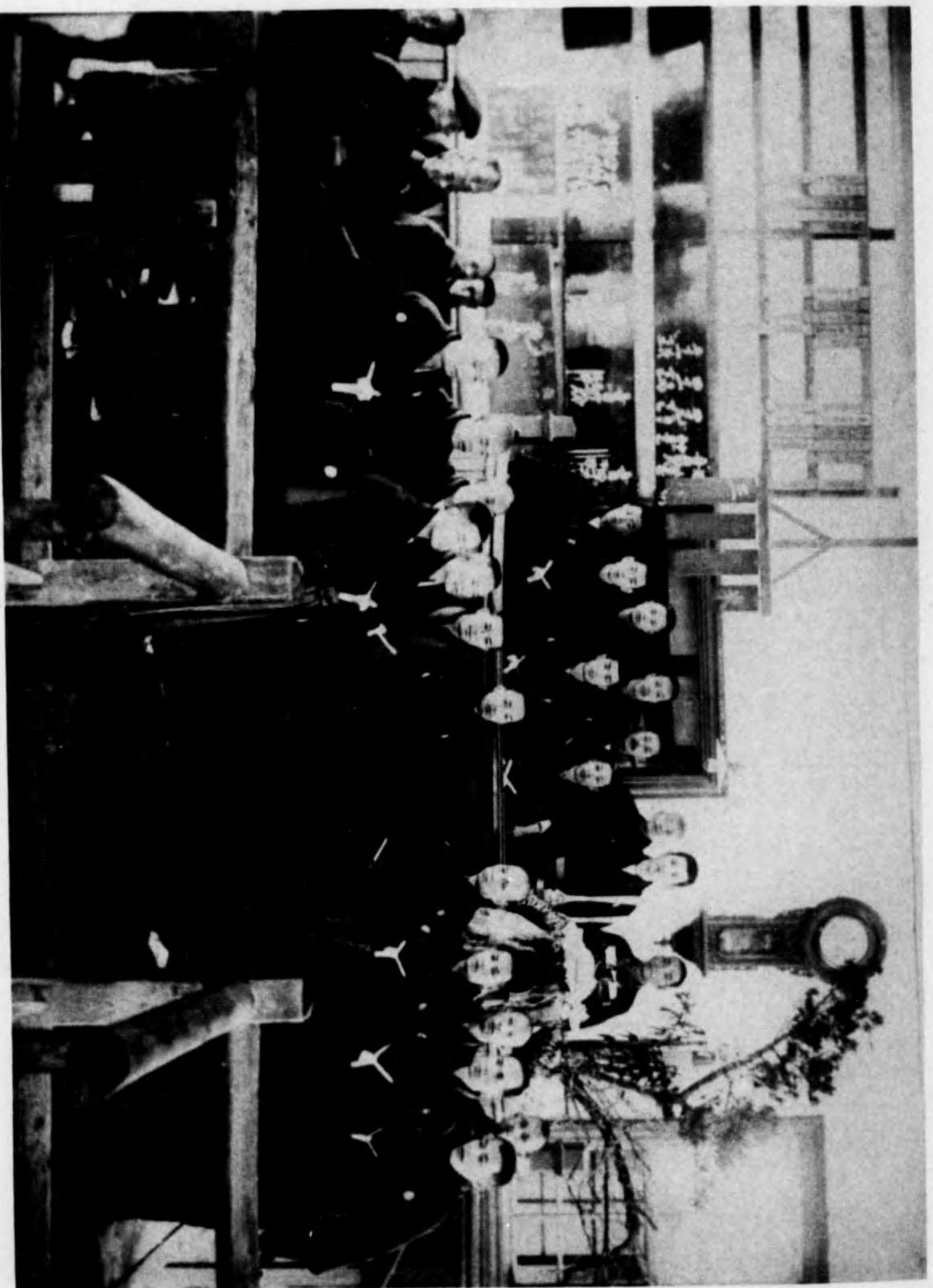




豐橋米穀取引全景



花田村開設當時農橋米穀販賣所
 平面圖
 縮尺百分之壹



新春初立會之豐橋米穀取引所 (大正八年)

長 事 理



氏水碧浦三故代三



氏郎太三本山故代初



氏次直井白故代四



氏藏六藤加故代二

長 事 理



氏市麗村中 代七



氏次應安富故 代五



氏郎太悅西中 代八



氏郎三廣西中故 代六

現 役 員



磯村彌八氏



中林登平氏



伊東治郎氏



山本高太郎氏



山本勝次郎氏

功 勞 者



前理事 故 永井 仙十 氏



前支配人 新井 實 氏



前理事 故 中林 登平 氏

功 勞 者



取引員 野寄房吉氏



取引員 故 山本富藏氏



取引員 故 小野田俊平氏

緒言

株式會社豐橋米穀取引所ハ、明治廿七年創設、爾來先輩各位ノ撓マザル努力ニ依ツテ、明治、大正、昭和ノ三代ニ互リ、豐橋市唯一ノ取引所トシテ、旭日昇天ノ如キ勢ヲ以テ發展ヲ遂ゲタ。

然ルニ、昭和十四年米穀統制法實施サル、ニ及ンデ、新設ノ日本米穀株式會社へ一切讓渡ノ運命ニ逢着シ、過去四十六年間ノ歴史ヲ閉ヂタノデアッタ。時代ノ趨勢トハ云へ、創設當時ノ苦心カラ、幾多波瀾曲折ニ富ンダソノ荆曲ノ道ヲ斬リ拓キ闘ツテ來タ先輩各位ノ辛苦ヲ偲ブトキ、轉斷腸ノ感アルハ、獨リ私許リデハナカラウト信ズ。

豐橋米穀取引所大團圓ヲ告グルニ當ツテ、先輩各位ノ偉業ヲ偲ブト共ニ、取引所ノ機能ヲ遺憾ナク發揚シ、地方經濟界ニ印シタ巨大ナ足跡ヲ永遠ニ記念セ

ンガタメニ、コノ一冊子ヲ刊行シタ所以デアアル。
清算事務ノ閑暇ヲ割キ、匆忙ノ裡ニ編纂シタルモノナレバ、元ヨリ内容杜撰
ノ譏リハ免レ難キヤモ知レヌガ、各種統計數字ハ、ソノ年々ノ帳簿ヲ丹念ニ調
査シ作成シタルモノナノデ、豊橋地方ノ米價變遷研究ノ參考資料トモナラバ望
外ノ幸デアアル。

本誌刊行ニ當リ、絶大ナル御支援ヲ賜ツタ前理事長中村麗市氏始め、所員各
位ニ衷心深謝ノ意ヲ表スル。

紀元二千六百年十一月

代表清算人 中西悦太郎

株式會社 豊橋米穀取引所

沿革

豊橋市ハ、往昔「吉田」ト稱シ、東海道五十三次ノ一驛タリ。附近ノ地質豊饒ニ
シテ、西遠東三ノ平野ノ中心點タルト、三河灣ニ臨ミ、豊川ノ流域ヲ控ヘタルトハ
海陸交通ノ至便ナル天恵ニ浴シ、自ラ貨物ノ集散市場タラシメタリ。慶長年間、關
ヶ原ノ役ニ東軍糧米ノ集中本部ヲ置キタルハ、既ニ米穀集散市場タリシヲ證明スル
モノナリ。順次發達シテ明和、天明年代ニハ、吉田驛曲尺手及ビ下地町ニ、米會所
及ビ相場會所ヲ創設シ、吉田藩ノ御倉米ヲ中心ニ、各地産米ヲ扱フ機關トシテ、連
綿繼續シ來リ、伊勢桑名、近江大津ト共ニ、東海道三會所ト稱セラレ、明治維新ト
ナリ、舊藩知事ハ、政府ノ訓示ニ基キ、生産會社ナルモノヲ興シ、大ニ改良ヲ加ヘ

米麥其他ノ相場標準ヲ立テ、定期賣買ニ彷彿タル取引盛シニ行ハレシガ、明治九年政府ハ一旦各地ノ相場會所ヲ廢止スルノ命令ヲ發セラレタルヲ以テ、止ムヲ得ズ豊橋ニ於テハ、其ノ後暫ク官許ノ相場會所ナルモノヲ見ザルニ至リシガ、商人等ハ相集合シ、相互間ニ米麥其ノ他ノ直、延取引ガ行ハレタリ。之レ自然ノ趨勢免ル能ハザル處ナルベシ。其ノ間、相場市場免許ノ運動ハ數々講ゼラレ、遂ニ明治二十七年三月五日、現今ノ株式會社豊橋米穀（始メハ米麥ト稱ス）取引所ガ、明治二十六年、取引所法ノ制定ニ伴ヒ認可ヲ得テ、全市民歡呼ニ迎ヘラレ設立セリ。資本金四萬圓ニシテ、本所市場ヲ關屋町ニ開設シ、業務上倉庫設置ノ必要ヲ認メ、豊橋驛前字西宿ニ、二棟、百五十六坪ヲ建築セリ。時恰モ日清戰役起リ、經濟界ノ動搖ニ安定ヲ缺キタレドモ、明治二十八年ニハ講和成立シ、戰勝後ノ本邦經濟界ハ面目ヲ一新シ各般ノ事業發達ニ伴ヒ本所ノ賣買取引盛ヲ來シ、市場常ニ雜踏ヲ極メ、取引員益々増加三十四名ニ達シ、取引員、營業店舗ヲ設ケントスルモ、其ノ家屋ヲ求ムルニ困難ヲ來セリ。明治二十九年ニハ、戰後事業勃興シ、新ニ倉庫會社設立セラレ、完

備セル倉庫竣工ニ依リ米穀受渡ニハ其ノ倉庫ヲ利用スルコト、シ、一旦金八千圓減資ヲナシ、明治三十年三月二十六日、株式取引追加認可トナリテ上場セリ。明治三十年下半年ニハ、資本金ヲ六萬四千圓ニ増額シ、現今ノ敷地、花田町字石塚（其ノ當時ハ花田村字石塚）三十八番地ノ一及ビ其ノ附近五千餘坪ヲ買收シテ移轉ヲ計畫シ、取引員店舗家屋三十軒ヲ新築シ、明治三十二年一月二十三日移轉セリ。然ルニ關屋町民移轉ニ大反對セリ。其ノ機ニ乘ジ市政上ニ於ケル黨派政策ニ縛ラレ來リ、役員ノ移轉施設ニ對シ、アラユル攻撃ヲ加ヘシガ、其ノ目的ヲ達シ得ズ、遂ニ個人行為ノ弱點ヲ地方裁判所岡崎支部ニ訴ヘラレ、數回ノ公判アリ、法律大家鳩山和夫ノ卓絶セル辯護ニ依リ無罪ノ宣告アリテ一段落ヲ告ゲタリ。移轉地ハ市ノ郊外畑地ノ中央ナリシガ、順次人家殖ヘ、通稱「米屋町」ト、呼ブニ至レリ。其ノ後市ニ合併セラレ、船町線開鑿セラレ一等道路ニ面スルニ至リ市ノ膨張ニ伴ヒ殷盛ノ市街トナレリ。明治三十五年勅令改正ノ結果、取引所ノ資本金ハ十萬圓以上トシ、株式組織ノ取引所ニ在リテハ、其ノ拂込額ガ十萬圓以上タルヲ要スルコト、ナリ、本所ハ同

年下半期ニ於テ資本金十萬圓ニ増額シ全額ノ拂込ヲ了シタリ。

明治三十六年十二月、第一次營業滿期ニ付キ更ニ認可ヲ得テ十ケ年間繼續セリ。之レヨリ先、津、直江津、静岡、徳島ノ四取引所ハ繼續不認可ノ指令ニ接シ、大ニ憤慨シ農商務大臣ヲ被告取り、行政裁判所ニ不當命令取消ノ訴訟ヲ提起シ公判審理ノ結果、其ノ土地商業ノ狀況ガ許可當時ニ比シ變リナケレバ、繼續スベキモノトノ解釋ニ依リ勝訴シ繼續セリ。之レ農商務省ハ、一旦各地ニ取引所ヲ許可シタルモ、其ノ濫設ヲミテ樞要地ノ外ハ廢滅ヲ適當ト認メ下シタルモノナリ。取引所側ニテハ、其ノ地方的立場ヨリ存續ヲ熱望セルモノ切ナルモノアリ、本所モ亦地方取引所ノ一ツニシテ役員、有力者、憂慮狂奔幸ニ無事繼續ノ指令ヲ仰ギ得タリ。コノトキ兼營ノ株式及ビ麥ハ内命ニ從ヒ放棄シタリ。

明治三十七年、日露國交斷絶シ、開戦トナリ、經濟界ノ動搖ニ伴ヒ、米モ亦其ノ影響ヲ受ケ市況不振ヲ極メテ業績舉ラズ、明治三十九年、賣買委託者ニ對スル取引所ノ賣買證明規定ヲ發布セラル。日露戰勝ノ餘響ハ本邦經濟界ノ膨脹トナリ、好景

氣ヲ出現シ株式界活躍ヲ演ジタルモ東ノ間ニ激落ヲ來シ、米界モ波瀾漸大トナラムトセシガ、東京四大銀行貸出警戒發表ヲ動機ニ忽チ萎縮シ、市場振ハザルコト益々甚シク、之レ内外戦債ノ巨額ナル利拂ト、戰勝後ノインフレーション期ニ勃興セシ事業ノ失敗等ニ依リ、財界不振ニ陥入リシ影響ニ外ナラズ、コノトキニ於テ解散說出デ役員、大株主會ヲ開キ商議セシニ、大勢解散ニ傾キタルモ、理事ニテ最大株主タル永井仙十獨リガ、再ビ免許ヲ得ル能ハザルモノナレバ、地方ノ爲メ忍ブベキト主張シ存續ニ決セリ。後日隆盛ヲミタルハ公共的觀念強キ永井ノ賜ト稱ス可シ。

先ヅ之レガ振興策トシテ、東西市場ノ直取引、延取引ノ賣買漸次發達スル狀況ニ鑑ミ本所モ亦直取引ヲ開設スベク定款及ビ細則變更ノ認可ヲ得テ、明治四十二年八月十六日ヨリ之レヲ執行シ相當ノ好成绩ヲ收メ得タリシガ、明治四十四年五月下旬ニ至リ、直取引ニ付キ、競賣買又ハ糶糶賣買ノ方法禁止ノ命令下リ廢止セリ。一方ニ於ケル定期取引ハ世運ト共ニ繁榮ヲ來シ一陽來復ノ業績ヲ收ムルニ至レリ。大正二年十二月、第二次營業滿期ニ付キ、無事更ニ繼續認可ヲ得タリ。

本所發起人ニシテ創立以來役員トナリ、明治三十一年九月十六日以來、理事長トナリ功績アル有力者、三浦碧水、大正四年二月二十七日逝去セラレ敬弔ノタメ、市場臨時休業ヲナセリ。

政府多年ノ懸案タリシ取引所法及ビ取引所税法改正案ハ、大正三年三月帝國議會ヲ通過シ、法律第三十三號及ビ第二十三號ヲ以テ公布セラレ、同年九月一日ヨリ實施ノコト、ナリ、之レニ關スル定款及ビ營業細則ヲ變更シ、從テ賣買手数料及ビ仲買口錢ノ定率ヲ改定シ、又新ニ委托手数料率ヲ定メ之レヲ實施セシニ、市場賣買取引高約三倍ニ達シタリ。即チ、從來仲買人ハ公然秘密式ノ吞ミ行爲嚴禁セラレタル結果ナリ。改正取引所令ニ於テ單位十石ヲ百石ニ、當所仲買人身元保證金二千圓ナリシヲ一萬圓ニ引上ゲトナリ、地方取引所ハ激變ノタメ實施ニ困難ヲ感ジ陳情ノ結果、單位ハ大正五年六月末日迄五十石、身元保證金ハ大正八年八月末日迄二分納ノ規定ヲ設ケラレタリ。

大正三年歐洲戰亂勃發シ、其ノ影響ハ本邦一般經濟界膨脹ノ機運ヲ醸シテ物價逐

次昂騰シ、米界ノ風雲又日一日ト躍進シ停止スル處ヲ知ラズ大奔騰セリ。茲ニ於テ政府ハ大正六年九月一日物價調節令ヲ發布シ、取引所又之レガ緩和策トシテ、代用米格付範圍ヲ擴張シ、標準米「中米」ヲ「下米」ニ改メ、古米ニ對スル特別格下ゲヲ廢止スル等、法規ノ範圍ニ於テ其ノ機能ヲ發揚シ、以テ調節ニ留意シタルモ正米事情ハ益々強硬ニシテ飛躍ヲ連續セリ。本所ハ大正七年八月中立會休止ノ已ムナキニ至レリ。其ノ時ニ於テ富山縣ニ端ヲ發シ、關西地方ニ傳播セシ所謂米騒動各地ニ波及シ、八月十日以來名古屋市ヲ侵シ、十二日ニハ當市ニモ突發シ、十三日ニハ夜暴徒大舉シテ本所及ビ仲買店ヲ襲ヒ警官防止スル能ハズ、本所事務室ニ放火シ、將ニ大事ニ至ラントセシガ幸ニ有志ノ力ニヨリ防止スルヲ得タリ。世俗米商人又ハ取引所ガ利ヲ貪ル爲メニ米價ヲ煽騰セシメタルモノト誤解セシニ基クモノナルベシ。十四日豐橋憲兵分隊(世俗軍隊ノ出動ト稱ス)ノ出動ニヨリ鎮靜ニ歸セリ。十一月休戰條約成立シ、株式界ノ大暴騰ヲ現シ、米界又大勢ノ餘波ヲ免レズ、十二月其ノ筋ヨリ臺灣米及ビ外國米ヲ受渡シニ代用スベク示達アリ、大正八年四月限ヨリ同年十

二月限迄之レヲ施行シタリシモ經濟界ノ趨勢ハ依然強調ヲ示シ、大正八年十二月二日ニ於ケル二月限ハ石價五十二圓四十錢ニ昂騰シ古來未曾有ノ新高値ヲ示現セリ。然ルニ、三月十七日株式界ハ大暴落ヲ演ジテ市場混亂シ、爾後不振ニ陥入りシニ拘ラズ米界ハ隆盛ニ發展シ、大正九年度賣買取引高累計四百萬石ニ達スル盛況ヲ極メ爾後大正十二年八月二十五日解散命令ノ下ル迄好況ヲ持續シタリ。此ノ間、大正十一年中取引所法及ビ取引所稅法改正アリタル結果、仲買人ヲ取引員ニ改メ、定款並ニ業務規定ヲ變更シ、取引所ニ商議員會ヲ常置スベク定款中之レニ關スル規定ヲ制定シ農商務大臣ノ認可ヲ得タリ。

解散命令ハ大正十二年八月二十五日農商務大臣ノ名ヲ以テ突如電報デ爲シ來レリ實ニ晴天ニ霹靂ノ思ヒニシテ、驚愕一方ナラズ、有力者ガ奔走陳情ノ結果、行政訴訟ヲ仰グ外術ナシト決定シ、大正十二年十月出訴シ、十二月第一回公判ガ開カル。其ノ理由ヲ聞クニ農商務大臣ハ、豊橋相場ハ東京相場ノ寫シナレバ、常ニ追從シ公益ヲ害スルト云フニアリ、十三回ノ公判ヲ經テ、當所相場ハ東京相場ニ追隨スルモ

ノニ非ザルヲ立證シタル申條正當ト認メラレ、大正十五年八月二十九日勝訴宣告アリ。辯護士ハ法曹界ニ於テ錚々タル岸清一、岡崎正也、木村篤太郎ノ三氏ナリ。

大正十二年十二月、第三次營業期限滿了ニ付キ更ニ免許ヲ受クベキ豫定ナリシガ夫ヨリ先キ農商務大臣ヨリ解散ノ命令ニ接シタルガ爲メ、繼續認可申請書並ニ行政裁判所ニ解散不當命令取消ノ出訴ヲナシ、幸ニ勝訴トナリタレバ當地方有力者ノ應援ニヨリ、昭和二年三月八日付商工大臣ノ免許ヲ得テ繼續セリ。其ノ時、主務省ノ示旨ニ添ヒ實米商人ヲ取引員ニ網羅シ、受渡ヲ獎勵シ其ノ地方ノ實米ノ需給機關トナリ、其ノ機關ヲ發揮スベク誓約書ヲ商工大臣ニ提出シタリ。然ルニ數年間休業シ、其ノ間ニ變遷スルモノ多ケレバ其ノ取調ヲナシ、定款、業務規定、財産保管方法規定ノ制定、兩手數料認可並ニ役員改選ヲ行ヒ、昭和二年四月一日ヨリ市場立會ヲ開始セリ。大正十二年八月ヨリ實ニ三年八ヶ月ナリ。

經濟界ハ戰後繁榮ノリアクシヨシニ漸次不況へ轉向シツ、アリ、昔日ノ繁昌期スベカラズ諸種ノ困難ニ遭遇セシモ、誓約書ノ趣旨ヲ遵奉シ、實米ノ受渡ヲプロモトトセシガ、取引員中可成的之レヲ忌避セントスル傾向アリ、苦心ヲ重ネ東西各所ノ

長ヲ視察シ案出シテ正米市場ヲ開始シ、米穀商人、生産者、消費者ヲ集中シ清算市場ト結び着ケ、不離不即ノモノトナセバ目的ヲ貫徹スベシト認め、正米取引ノ要項ヲ作成シ要路ニ提出シタルニ賛成ヲ得タレバ、昭和三年十二月十二日、米出廻期ヲ以テ開場シ大ニ地方正米ノ聲價ヲタカメ一般ノ便益ヲ與ヘ、受渡米ノ賣買モ圓滑ニ利用サレ以前ノ苦惱ヲ除クヲ得テ、倉庫施設ト相俟テシングルナ合理的取引トシテ一般ニシヨツクヲ與ヘ人氣ニ投合シタレバ、昭和四年十二月十九日ヨリ主務大臣ノ認可ヲ得テ益々盛大ニ取引セラレ、本所ハ内外共ニ其ノ改善ヲ認めラレ聊カ誓約書ノ義務ヲ完ウスルノ日アリト期待スルニ至レリ。

昭和五年一月十一日、濱口内閣ニ依テ金解禁斷行セラレ、爾來正貨流出シ財界緊縮シテ不振益々深刻トナリ、株式界萎縮殆ンド其ノ極ニ達シ、米界モ亦不振ニ陥入り且大豊作ニ、十月六日ニハ十二月限十二圓八十五錢ト、大正五年四月以來十四年目ノ大安値ヲ示現セリ。

昭和六年ニ入り世界的經濟恐慌ノ波動ヲ受ケ、物資低落シテ米界振ハズ、六月アメリカ、フウヴァー大統領戰債モラトリウム宣言ニ稍々景氣挽回ノ兆ヲ示セリ。盛夏前ヨリ雨天續キ、溫度低ク、米價暴騰セシモ昔日ノ如キ盛況ヲ呈セズ、七月、受渡規定ヲ變更シ、米券受渡ノ端緒ヲ作り、久シク中絶セシ夕市二節ヲ、七、八、九ノ三ヶ月増加開市ノ免許ヲ得、尙進ンテ銘柄賣買取引ノ認可ヲ仰ギ、益々實米需給ニ應ズル機關トシテ完全設備ヲ期シ、取引所ノフアンクシヨン發揮品位向上ニ努力セントス。

現任役員ハ理事長中村麗市、理事伊東治郎、同中西悅太郎、監査役山本勝治郎、同中林登平、支配人新井實ノ諸氏ニシテ所屬取引員十三名ナリ。

取引物件ハ米ノ一種ニシテ、清算取引、實物取引ノ二方法アリ、清算取引ハ三河中米ヲ標準トシテ格付範圍ニ於テ代米ヲ以テ供用シ得ラルベク、市場立會ハ前場五節又ハ六節、後場ハ五節又ハ七節ニシテ、賣買方法ハ當地方固有ノ寄セ板式ト稱スル競賣買ニ依リ最モ安全且正確ノモノナリ。實物取引ハ見本ニヨリ競賣買方法ニテ毎日午前十一時十分ヨリ一回行ヒ、米ト引換ニ現金授受ヲナス絶對安全正確無比ノ取引ナリ。

豊橋米穀取引所創立ニ關スル願書

豊橋米麥取引所株式會社發起認可願

私共今回米麥取引所株式會社設立致度候間其發起認可相成度商法第一百五十九條ニ據リ別紙目論見書及假定款相副此段奉願候也

明治二十六年十月二日

愛知縣渥美郡豊橋町大字三浦十番戸
魚 商 杉 田 權 次 郎

愛知縣渥美郡豊橋町大字札木百四十八番戸
質及米穀商 白 井 直 次

愛知縣渥美郡豊橋町大字魚町二十二番戸
魚類及油醬油砂糖商 瀧 崎 安 之 助

愛知縣渥美郡豊橋町大字魚町二十三番戸
質 商 佐 藤 善 六

愛知縣渥美郡豊橋村五百八十三番戸
質及米穀雜穀商 宅 間 菊 太 郎

愛知縣渥美郡豊橋町大字荳町三十番戸
質及米穀雜穀商 伊 東 米 作

愛知縣渥美郡豊橋町大字魚町百二十二番戸
米穀及雜穀商 西 本 猪 太 郎

愛知縣渥美郡豊橋町大字松葉町百十四番戸
米穀及雜穀商 中 林 登 平

愛知縣渥美郡豊橋町大字札木九十六番戸
米穀及雜穀商 鈴 木 増 造

愛知縣渥美郡豊橋町大字下町四十四番戸
米穀及雜穀商 宮 田 岩 藏

愛知縣渥美郡豐橋町大字關屋百〇八番戶

米穀及雜穀商 伊藤才次

愛知縣渥美郡豐橋町大字關屋十一番戶

搦及米穀雜穀商 小山與作

愛知縣渥美郡豐橋町大字舟町九十一番戶

酒商 佐藤市十郎

愛知縣渥美郡豐橋町大字舟町百二十九番戶

運漕業 高橋小十郎

愛知縣渥美郡豐橋町大字吉屋三十三番戶

米穀及雜穀商 菅沼源六

愛知縣渥美郡豐橋町大字吳服十八番戶

吳服商 佐藤彌吉

愛知縣渥美郡豐橋町大字魚町七十六番戶

太物商 大場儀平

愛知縣渥美郡豐橋町大字八丁三百六十八番戶

活版業 三浦碧水

愛知縣渥美郡豐橋町大字舟町三十五番戶

米穀及雜穀商 大原安太郎

愛知縣渥美郡豐橋町大字花園二十一番戶

米穀及雜穀商 石川喜八

愛知縣渥美郡豐橋町大字紺屋十五番戶

米穀及雜穀商 森田良作

愛知縣寶飯郡下地町二百八十八番戶

油及米穀雜穀商 山本朋吉

愛知縣寶飯郡下地町三百三番戶

酒造業 永井仙十

愛知縣寶飯郡下地町百二十七番戶

米穀及雜穀商 中川與七

農商務大臣伯爵 後藤象二郎殿

愛知縣寶飯郡下地町二百八十二番戸
材木商 中西廣三郎

愛知縣寶飯郡下地町百七十四番戸
米穀及雜穀商 中尾米八

愛知縣寶飯郡下地町二百六十八番戸
米穀及雜穀商 山本富藏

愛知縣寶飯郡下地町百九十五番戸
米穀及雜穀商 渡邊幾次郎

愛知縣寶飯郡下地町百二十二番戸
米穀及雜穀商 杉浦平四郎

愛知縣寶飯郡下地町三百二十六番戸
米穀及雜穀商 淺田彌市

愛知縣寶飯郡下地町百八十六番戸
米穀及雜穀商 伊藤庄藏

別紙目論見書 (抄本)

- 一、創立場所 愛知縣渥美郡豐橋町大字關屋
- 一、戸數 四千二百四十二戸、人口一萬三千二人
- 一、當地輸入米 三十二萬六百十七石、麥十二萬五千十九石
- 一、當地移出米 二十七萬二百一十一石、麥十二萬五千七百六十三石
- 一、東三地方產出米 二十三萬千二百五十石、麥三萬六千七十二石
- 一、米商人 三百六十五人
- 一、賣買取引米豫想 三十萬石

(附記) 本願書ヲ主務省ニ提出セシモ地方一小都會ノ事ナレバ、當路者ハ當初ヨリ真面目ニ相手ニサレズ、豐橋ニハ商業會議所アリヤ、トノ試問ニ無シト答フレバ、如斯商業殷盛ナラザル土地ニ取引所ノ必要ナシト擲諭セラレ惶歸町シテ、

豐橋商業會議所ヲ設立シ、而シテ十一月十四日附ニテ請願シ、後藤農商務大臣ニ直接面會陳情セシニ、後藤大臣ハ豪腹ニシテ傳統の方針ニ拘泥セズ「ヤレ〜」ト、許可セラレ各地方共多數許可ヲ仰ギ得タルハコノ一時代ノミナリ。

一八

認第七七號

農商務省指令商第七七四一號

愛知縣渥美郡豐橋町

杉田權次郎外三十名

明治二十六年十一月附申請株式會社豐橋米麥取引所發起ノ件認可ス
但地區ハ追テ指定スル所ニ依ルベシ

明治二十七年一月十六日

農商務大臣伯爵 後藤 象二郎 印

株式會社 豐橋米麥取引所定款

第一章 名稱位置地區及營業期限

第一條 當取引所ハ株式會社豐橋米麥取引所ト稱ス

第二條 當取引所ハ愛知縣渥美郡豐橋町大字關屋百五十五番戸ニ設置ス

第三條 當取引所ノ地區ハ愛知縣渥美郡豐橋町同郡豐橋村同郡豐岡村同郡花田村同縣寶飯郡下地町同郡鹿管村ノ六ヶ町村トス

第四條 當取引所ノ營業期限ハ設立免許ノ日ヨリ滿十年トス
但滿期ニ至リ更ニ繼續ヲ出願スルコトアルヘシ

第二章 賣買取引ノ物件

第五條 當取引所ニ於テハ米麥ヲ賣買取引トスルモノトス

第三章 資本金及株式

第六條 當取引所ノ資本金ハ四萬圓トシ之ヲ千六百株ニ分チ一株ヲ金貳拾五圓トス
但右資本金ノ內壹萬圓ヲ以テ倉庫資本ニ充ツ

第七條 株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作り之ニ其金額發行ノ年月日番號所名印、理事長ノ氏名印、株主ノ氏名並ニ株主ノ注意スヘキ要件ヲ記載ス

第八條 取引所設立ノ免許ヲ得タルトキハ五十日以内ニ於テ役員會ノ議決シタル期日ニ其金額ノ半額ヲ拂込マシメ殘額ハ明治廿八年六月迄ニ其拂込ヲナサシムヘシ
但拂込期日ハ役員會ニ於テ之ヲ定メ尠クトモ十四日以前ニ各株主ニ通知スヘシ

第九條 期限ニ拂込ヲ怠リタル株主ハ其拂込ムヘキ金額ニ對シ期日ノ翌日ヨリ金百圓ニ付一日ニ金三錢ノ遅延利息及ヒ其遅延ノ爲ニ生シタル費用ヲ支拂フヘシ

第十條 拂込ヲ怠リタル株主ニハ更ニ二十四日ノ期間ニ於

テ拂込ムヘキコトヲ催告シ仍ホ拂込マサル時ハ其株主ニ通知シ其株券ヲ公賣スヘシ

第十一條 前條公賣ノ株式代金ニシテ催告シタル拂込金額及第九條ノ利息其他公賣ノ費用ニ滿タサルトキハ其不足金ヲ前株主ヨリ支拂ハシムルヘシ、但剩餘金アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第十二條 當取引所ノ株券ヲ賣買讓與シ又ハ姓名ヲ更改シタルトキハ株券ト共ニ記名ノ書換請求書ヲ取引所ニ差出シ株主名簿及株券記名ノ書換ヲ請フヘシ 但所有者死亡又ハ失踪シ其相續人ヨリ記名ノ書換ヲ求ムル場合ニ於テハ親戚又ハ二名以上ノ證人ヲ要ス

第十三條 株券汚染損壞シタルトキハ新券ト交換ヲ求ムル事ヲ得、若シ亡失シテ新ニ株券ノ交付ヲ求ムルトキハ其事實ヲ明記シ證人二名以上ノ連署ヲ以テ申出ツヘシ、此ノ場合ニ於テハ理事長ハ直ニ其記名ノ書換ヲ停止シ三日間新聞紙ヲ以テ其事由ヲ公告シ三十日ヲ經ルモ尙發見セサルトキハ新株券ヲ交付スヘシ

第十四條 株主ノ破産家資分散又ハ法律ノ結果ニ因リ株

式ノ權利ヲ得タル者ハ取得ノ證左ヲ添ヘ記名ノ書換ヲ請求スヘシ

第十五條 株券記名ノ書換又ハ新株券ノ交付ヲ請求スル者ハ規定ノ手数料(記名書換ハ金十錢、新株券ハ金二十錢)ヲ當取引所ニ支拂フヘシ、尙公告其ノ他ノ費用ヲ要スル時ハ請求者之ヲ負擔スヘシ

第十六條 株主實印ヲ改メ又ハ屬籍住所ヲ轉スルトキハ直チニ當取引所ニ報告スヘシ

第十七條 計算閉鎖ノ爲メ毎年通常總會ニ際シ役員會ノ決議ヲ以テ一ヶ月ヲ踰ヘサル期間株券記名書換ヲ停止スルコトアルヘシ

第十八條 當取引所資本金ノ増減ヲ株主總會ニ於テ決議シタル時ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

第四章 役員及所員

第十九條 當取引所ハ左ノ役員ヲ置ク

理事長 一名

ヲ得

第二十三條 理事長及理事ノ在職中其被選權利制限株券ハ融通ヲ禁スル爲メ封印シテ之ヲ當取引所ニ預リ置クヘシ

第二十四條 理事長理事及監査役ニ缺員ヲ生シタルトキハ臨時株主總會ヲ開キ補缺選舉ヲ爲スヘシ其補缺員ハ前任者ノ殘期ヲ繼クモノトス

但法定ノ人員ヲ下ラス事務ニ差支ナキトキハ次回ノ改選マテ延期スルコトヲ得

第二十五條 理事長理事及監査役ハ其任期滿ルト雖トモ後任ノ役員未タ農商務大臣ノ認可ヲ得サル間ハ前任ノ事務ニ從フノ義務アルモノトス、又更迭ノ場合ニ於テハ其事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第二十六條 理事長理事ノ俸給及監査役ノ報酬ハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 理事長ハ取引所ヲ代表シ其事務ヲ總轄シ理事ノ分掌ヲ定メ定款並ニ諸規則及總會ノ議決ヲ施行シ其責ニ任スヘシ

理事 三名
監査役 二名

當取引所ハ左ノ所員ヲ置ク

支配人 一名
副支配人 一名
書記 若干名
勘定係 同
市場係 同
現米調査係 同
倉庫係 同

第二十條 役員ハ總會ニ於テ投票ヲ以テ十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉シ投票多數ヲ以テ當選者トス投票同數ナルトキハ年長者ヲ擧ケ同年ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

但シ理事ノ内二名ハ地區内六ヶ月以上居住シタルモノニ限ル

第二十一條 理事長ハ理事中ヨリ五選ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 役員ノ任期ハ二ヶ年トス、但再選スルコト

第二十八條 理事ハ理事長ノ指揮ヲ受ケ左ノ事務ヲ分掌シ
理事長事故アルトキハ之ヲ代理ス

一 市場ヲ整理シ仲買人ノ行爲ヲ監督シ賣買上ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌ルコト

一 金銭出納及倉庫ニ關スル事務ヲ掌ルコト

一 諸帳簿計算ノ整理ヲ掌ルコト

第二十九條 監査役ハ理事理事ノ業務施行上法律命令定款及總會ノ議決ニ適合スルヤ否ヲ監査シ計算書、財産目錄、貸借對照表、毎半期報告書、配當金分配案等ヲ檢査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトニ任ス

第三十條 監査役ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ諸般ノ業務ヲ尋問シ諸帳簿書類及金穀財産等ノ現況ヲ檢査スルコトヲ得

第三十一條 理事長ハ役員會ノ決議ヲ以テ定款ノ趣旨ニ從ヒ其評決ヲ以テ營業上ニ關スル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 理事長ハ役員會ノ決議ヲ以テ仲買人中行爲不正ナルモノ又ハ不穩當ノ賣買ヲ爲スモノ若クハ一般

仲買人ノ營業ニ妨害ヲ爲スモノアルトキハ其賣買ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ニ申告スヘシ又除名セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ該當スル行爲アリト認ムルトキハ其事跡判明セサルモ一時其者ノ賣買ヲ停止シ取調ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 理事長ハ役員會ノ決議ヲ以テ仲買人一同ノ間ニ設ケタル規約ヲ承認シ又ハ之ヲ改正セシムルコトヲ得

第三十四條 支配人以下ノ所員ハ理事長之ヲ任免シ其給料ハ役員會ニ於テ之ヲ定ム

第三十五條 支配人以下ノ所員ハ理事理事ノ指揮ヲ受ケ各其事務ヲ擔任ス

第五章 株主總會及役員會

第三十六條 株主總會ヲ分ツテ通常總會及臨時總會ノ二種トス

ルモノモ加算ス以下之ニ準ス）以上ニ當ル株主ノ出席ヲ以テ成立ス

定款ノ變更資本金ノ増減及任意ノ解散ニ係ル總會ハ總株主ノ半數以上ニシテ總株主ノ二分ノ一以上ニ當ル株主出席スルニアラサレハ開會スル事ヲ得ス

第四十二條 總會ノ議事ハ出席株主議決權ノ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第四十三條 第四十一條ニ定ムル定數ノ株主出席セサルトキハ假決議ヲ爲シ更ニ十五日以内ニ第二ノ總會ヲ召集スヘシ第二總會ニ於テ仍ホ議決權ノ定數ニ滿タサルモ出席株主ノ多數ヲ以テ第一回ノ決議ヲ認可シタルトキハ之ヲ有効トス

但其召集ノ通知書ニハ其旨ヲ明告スヘシ

第四十四條 株主事故アリテ總會ニ出席スル能ハサルトキハ委任狀ヲ以テ株主中へ代理セシムルコトヲ得

第四十五條 通常總會ノ議長ハ理事理事之ニ任シ理事理事故アルトキハ理事之ヲ代理ス

但臨時總會ノ議長ハ株主中ヨリ臨時之ヲ選任スルコト

但臨時總會ノ議長ハ株主中ヨリ臨時之ヲ選任スルコト

但臨時總會ノ議長ハ株主中ヨリ臨時之ヲ選任スルコト

第三十七條 通常總會ハ毎年一月及七月ノ兩度之ヲ開キ理事長之ヲ招集シ前期間ノ計算書、財産目錄書、貸借對照表、報告書及配當金分配案等ヲ作り株主ノ決議ニ附ス其開期ハ七日前ニ會議ノ日ノ事項日時場所等ヲ通告スヘシ

第三十八條 臨時總會ハ役員會ノ決議ニ依リ又ハ監査役ニ於テ必要ト思考スル場合又ハ總株主五分ノ一以上ニ當ル株主ニ於テ當取引所ノ利害ニ關シ會議ノ目的ヲ示シ開會ヲ請求シタルトキ之ヲ開キ少クモ其開會三日前ニ會議ノ日ノ事項日時場所等ヲ通告スヘシ

但至急ヲ要スルトキハ其通告日限ヲ短縮スルコトアルヘシ

第三十九條 當取引所總株主五分ノ一以上ノ株主ヨリ臨時總會ヲ請求シタルトキハ理事長ハ其請求書ヲ受領シタル日ヨリ二十日以内ニ開會ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十條 株主ハ其所有ノ株數二十株迄ハ一株毎ニ一個ノ議決權ヲ有シ二十一株以上ハ五株毎ニ一個ヲ増ス

第四十一條 總會ハ總株主ノ三分ノ一（委任狀ヲ付シタ

トヲ得

第四十六條 役員會ハ理事長理事ヲ以テ之ヲ組織シ臨時之ヲ開ク役員會ハ理事長之カ議長トナリテ其議事ヲ統理ス可否相半ハスルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第四十七條 監查役ハ役員會ニ列シ意見ヲ陳ルコトヲ得但決議ノ數ニ算セス

第四十八條 總テ會議ニ於テ決議シタル事項ハ其要領ヲ決議録ニ登載シ議長及筆者之ニ署名捺印シテ保存スヘシ

第六章 仲 買 人

第四十九條 仲買人タラント欲スル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添ヘ理事長ニ差出スヘシ理事長ハ履歷書ノ正否及資格ノ有無ヲ詳査シ意見ヲ具シ農商務大臣ニ進達スヘシ仲買人タラント欲スル者ハ二名ノ紹介人ヲ要ス其一名ハ當取引所ノ仲買人タルヘシ

第五十條 仲買人政府ノ免許ヲ受ケタルトキハ身元保證算ヲ以テスルトヲ問ハス當取引所ニ對シ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第五十四條 仲買人廢業死亡若クハ資格ヲ失ヒタルトキハ本人又ハ相續人若クハ親戚ヨリ免許狀ヲ添ヘ屆書ヲ理事長ニ差出スヘシ

理事長前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ三日以内其旨ヲ市場ニ揭示シ計算ヲ整理シタル上農商務大臣ニ進達スヘシ

第五十五條 仲買人營業ヲ停止セラレタルトキハ其姓名ヲ市場ニ揭示スヘシ若シ除名セラレタルトキハ免許狀及看板ヲ取引所ニ返還スヘシ此場合ニ於テハ理事長ハ免許狀ヲ農商務大臣ニ返還スヘシ

第五十六條 仲買人賣買上違約處分ノ爲メ身元保證金ヲ以テ賠償ニ充テタルトキハ其預リ證書ヲ取引所ニ返還スヘシ若シ之ヲ返還セサルモ其證書ハ廢紙ニ屬ス

第五十七條 仲買人身元保證金ノ預リ證書ヲ汚染損壞シタルトキハ更ニ新券ヲ請求スヘシ若シ亡失シタルトキハ其事實ヲ明記シ保證人連署ヲ以テ申出ヘシ取引所ハ

金米ハ壹千圓、麥ハ七百圓及當取引所ノ定款規則揭示等ヲ遵守スヘキ誓約書ヲ當取引所ニ差入レ其所屬組合ヲ定メタル上營業ヲ開始スヘシ、但米麥ノ仲買ヲ併セテ爲スモノハ其一方ニツキ多額ノ身元保證金ヲ差入レシム

仲買人身元保證金ヲ差入レタルトキハ當取引所ハ其預リ證書ヲ交付スヘシ此預リ證書ハ他ニ使用スルコトヲ得ス

仲買人ハ營業中當取引所ヨリ交付シタル一定ノ看板ヲ其店頭ニ掲クヘシ

第五十一條 仲買人身元保證金ハ國債證券地方債證券ヲ以テ代用スルコトヲ得其價格ハ役員會ノ定ムル所ニ依ル

但右代用證券ハ無記名ニ限ル

第五十二條 仲買人ハ當取引ノ定ムル区域内ニ其店舗ヲ設クヘシ仲買人ハ支店出張所取次人ノ類ヲ設ケ其營業ヲ行フコトヲ得ス

第五十三條 仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計

新聞紙ニ公告シ三十日ヲ經タル上新ニ預リ證書ヲ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ手数料金二十錢其他新聞公告料ハ本人ノ負擔タルヘシ

第五十八條 仲買人ハ抽籤ニ依リ同業中五名ヲ以テ組合ヲ構成シ各組合ニ於テ組長一名ヲ選舉シ之ヲ理事長ニ屆置クヘシ

但理事長ノ見込ヲ以テ各組合ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第五十九條 組長ノ任期ハ一ケ年トス、但滿期ニ至リ再選スルコトヲ得

第六十條 新ニ仲買人タル者ハ各組合中ノ缺員ニ補充スヘシ各組合滿員ノ場合ハ更ニ缺員ヲ生スルカ又ハ新仲買人ニ於テ一組合ヲ構成スルマテ本人選ム處ノ組合ニ屬スヘシ

第六十一條 組長ハ其組合ヲ代表シ其組合員ニ關スル一切ノ取締ヲナシ又役員會ニ參シテ意見ヲ述ヘルコトヲ得、但決議ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第六十二條 組合員ハ其組合中死亡逃走隠匿除名違約者等アルトキハ本人ニ代ハリ取引上ニ關スル業務ヲ整理スヘシ、但財産上ノ義務ハ之ヲ負擔セス

第六十三條 仲買人相互ノ間ニ於テ營業上ノ規約ヲ設ケタルトキハ理事長ニ届出テ其承認ヲ受クヘシ

第六十四條 仲買人ハ理事長ノ承認ヲ得テ代理人ヲ用ウルコトヲ得此場合ニ於テハ其者ノ住所氏名年齢及委任權限等ヲ記載シ理事長ニ申出ツヘシ、但仲買人トシテ營業禁止ヲ命セラレ又ハ除名ノ處分ヲ受ケ二ケ年ヲ經サル者ハ代理人トナスコトヲ得ス

第六十五條 代理人ニ於テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ役員ノ命令ニ違背シタルトキハ理事長ニ於テ其解任ヲ命スルコトアルヘシ

第六十六條 代理人ノ氏名ハ其委任及解任毎ニ本人ノ氏名ト共ニ市場ニ揭示スヘシ

第六十七條 仲買人ハ他ノ仲買人ノ代理人ヲ用ウルコトヲ得ス

第六十八條 仲買人ハ委託者ノ請求アルトキハ其委託ニ

關スル一切ノ事項ヲ隱秘スヘシ

第六十九條 仲買人他ノ委託ニヨリ賣買ノ約定ヲナシタルトキハ其事項ヲ記載シタル報告書ヲ製シ委託者ニ交付スヘシ又仲買人ノ請求ニヨリ當取引所ハ其賣買ヲ證明スヘシ

第七十條 仲買人ニ於テ債權者ノ爲ニ身元保證金ヲ差押ヘラレタルトキハ其金額ヲ補充スルニ非レハ新規賣買ヲ爲スコトヲ得ス

第七章 倉庫

第七十一條 當取引所ハ倉庫ヲ設置シ當取引所ニ於テ米麥ニ限リ之ヲ保管シ貨主ノ請ニ從ヒ倉荷證書又ハ指圖式倉荷證書ヲ發行スヘシ

七十二條 當取引所ハ役員會ノ決議ヲ以テ豫メ確實ナル藏主ト特別ノ契約ヲ結ビ賣買貨物受渡ノ便宜ト爲スコトアルヘシ此場合ニ於テハ契約書案ヲ添ヘ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ

數料及口錢ハ返還セサルモノトス

第七十九條 仲買人ハ委託ヲ受ケタル事件ニ付口錢ノ外必要ナル荷造、運搬費、藏敷料、保管料、現金遞送費若クハ爲替手數料、物品檢査費、等委託者ノ爲ニ立換タル實費ハ之ヲ其委託者ニ請求スルコトヲ得

第九章 市場ノ開閉及休業

第八十條 當取引所ノ市場ハ第八十一條ニ規定シタル休業日ヲ除クノ外毎日直取引及延取引ハ一回定期取引ハ三回一定ノ時間ニ於テ開閉ス其時限ハ之ヲ市場ニ揭示スヘシ定期取引ハ前項ノ外日曜日午前一場限り立會ヲ爲スコトアルヘシ此場合ニ於テハ豫メ其立會時間ヲ農商務大臣ニ申告シ市場ニ揭示スヘシ

第八十一條 當取引所ノ休業日ハ大祭日祝日日曜日及毎年々首三日間年末六日間トス其他已ムヲ得サル事情ニ依リ臨時休業スル時ハ豫メ其事由ヲ農商務大臣ニ申告シ市場ニ揭示スヘシ

第八章 手數料及口錢

第七十三條 當取引所ニ於テ仲買人ヨリ徵收スル手數料額ハ賣買取引ノ種類ニ依リ役員會ニ於テ之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七十四條 仲買人ニ於テ委託者ヨリ收入スル口錢額ハ仲買人ニ於テ協議決定シ理事長ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ理事長ハ農商務大臣ニ申告スヘシ

第七十五條 手數料又ハ口錢額ヲ變更セントストキハ第七十三條及第七十四條ノ手續ヲ經テ七日以上市場ニ揭示シタル後之ヲ實施ス

第七十六條 當取引所ノ手數料ハ直取引及延取引ハ當日營業時間内ニ定期取引ハ本證據金差入ノ定刻ニ於テ之ヲ徵收スヘシ若シ之ヲ差入サル者アルトキハ其身元保證金ヨリ取立タル上違約處分ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十七條 轉賣買戻ハ手數料及口錢ヲ徵收セス

第七十八條 賣買約定ヲ終ヘタル後解約スル事アルモ手

第八十二條 當取引所燒失等ノ事變ニ罹ルトキハ七日以内ニ假市場ヲ建設シ引續開場スヘシ、但己ムヲ得サル事故ニ依リ其期間ニ開場スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ農商務大臣ニ申告シ之ヲ公告スヘシ

第十章 直取引及延取引

第八十三條 直取引ハ特ニ期日ヲ指定セサルトキハ其受渡期日ハ五日トス

第八十四條 直取引及延取引ハ見本銘柄又ハ現物ニ就キ賣買スヘシ

但見本品ニハ要用ノ事項ヲ付記シ受渡ノ結了マテ當取引所之ヲ保管ス

第八十五條 直取引及延取引ハ一口十石ヲ下ルコトヲ得ス

第八十六條 直取引及延取引ハ相對賣買糶賣買及入札賣買ヲ用ウ

第八十七條 直取引ヲ爲シタルトキハ賣買双方合意アル

場合ハ一方若クハ双方ヨリ當取引所ニ證據金ヲ差入ルヘシ又理事長ノ見込ヲ以テ其徵收ヲ命スルコトアルヘシ
延取引ヲ爲シタルトキハ當取引所ハ證據金ヲ徵收スヘシ

第八十八條 直取引及延取引ヲ爲シタルトキハ買賣双方ヨリ取引所ノ帳簿ニソノ記入ヲ請フヘシ但シ延取引ヲナシタルトキハ賣主ヨリ買主ニ交付スヘキ賣渡證書ニ當取引所ノ證印ヲ受クヘシ

第八十九條 契約期限前ト雖トモ賣買者双方ノ合意ニ依リ取引所ニ届出テ受渡シヲ爲スコトヲ得

第十一章 定期取引

第九十條 定期取引ノ期限ハ三ヶ月ト定メ毎限月ニ分チ賣買ス其受渡期日ハ每限月ノ末日前日(六月ハ二十八日十二月ハ二十五日當日休業ニ當ルトキハ其前日)トス

第九十一條 定期取引ハ競賣買ヲ用ヒ米ハ三河國中米、麥ハ各銘柄ヲ以テ標準トス

第九十二條 定期取引ハ一口十石建トシ約定値段段ハ一石ノ呼直ヲ用ウヘシ

第九十三條 標準米ハ毎年一月ニ前年産米ニ依リ當取引所役員及仲買人組長立會ノ上之ヲ定メ塚詰トシ封緘ヲ爲シ當取引所ニ保管シ毎年十一月一日ヨリ發會スル翌年一月限ノ賣買ヨリ該新米標準ヲ以テ賣買ヲ開始ス若シ標準米ノ變更ヲ必要トスルトキハ現ニ賣買取組中ノ期間間ハ既定ノ標準ニ依リ更ニ開始スル期月ヨリ更正標準ニ依ルモノトス

第九十四條 定期取引ノ契約ヲ爲シタルトキハ左ノ區別ニ依リ賣買者双方ヨリ證據金ヲ徵收ス

第一 本證據金

本證據金ハ賣買成立ノ當初之ヲ徵收ス

第二 追證據金

追證據金ハ相場ノ高低ニ依リ之ヲ徵收ス

第三 定時增證據金

定時增證據金ハ受渡約定期日五日前ニ之ヲ徵收シ要用ト認メサル場合ハ之ヲ徵收セス

第四 臨時增證據金

臨時增證據金ハ非常ノ事變アルカ又ハ數日間休業スル等ノ場合若クハ相場ニ甚シキ高低アリト思量スルトキ之ヲ徵收ス

第九十五條 諸證據金ハ無記名國債證券同地方債證券及當取引所ノ倉庫並特別契約アル倉庫ノ倉荷證書ヲ以テ代用スルコトヲ得其價格ハ役員會ノ決議ヲ以テ豫メ之ヲ指定スヘシ、但取引所ノ都合ニ依リ何時ニテモ現金ト引換ヘシムルコトアルヘシ

第九十六條 非常ノ事變アルカ或ハ甚シキ相場ノ高低アルカ若クハ不穩當ノ賣買ト認ムルカ又ハ其當日ノ景況ニ依リ諸證據金ノ徵收ニ差支アリト思量スルトキ又ハ多數ノ賣買アリテ帳簿整理ニ差支アルトキハ役員會ノ決議ヲ以テ幾人ヲ限リ賣買高ヲ制限シ又ハ一時賣買ヲ差止メ或ハ全休ノ立會ヲ停止スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ即時其旨ヲ農商務大臣ニ申告シ市場ニ揭示ス

ヘシ

第九十七條 立會停止中ト雖トモ特ニ理事長ノ承諾ヲ得
テ米麥ノ轉賣買戻又ハ解約ヲ爲スコトヲ得

第十二章 受 渡

第九十八條 受渡ス其期日ニ至リ直取引延取引定期取引
ヲ問ハス當日午後壹時限リ賣主ハ銘柄藏所等ヲ届出テ
買主ハ其取引總金高ヨリ證據金等ヲ引去リタル殘額ヲ
取引所ニ差出スヘシ取引所ハ賣買主双方立會ノ上調査
係ヲシテ現品ノ検査及受渡シヲ爲サシメタル上其代金
ヲ賣主ニ交付ス調査係ノ審査ニ對シテハ異議ヲ唱フル
コトヲ得ス

第九十九條 代米格付表ハ毎年十一月役員會ノ決議ヲ以
テ之レヲ定メ農商務大臣ニ申告シ市場ニ揭示ス

第十三章 公定相場

三〇

第百條 直取引延取引ノ公定相場ハ其取引實際値段ヲ以
テ毎日一回市場ニ揭示スヘシ定期取引ノ公定相場ハ毎
日午前午後各限月毎ニ區別シ左ノ項目ニ從ヒ市場ニ揭
示スヘシ
寄附

賣買立會ノ最初ニ於テ賣買取引シタル一石ノ値段ヲ
云フ
大引
賣買立會ノ最終ニ於テ賣買取引シタル一石ノ値段ヲ
云フ

最昂相場
賣買立會中最モ高キ一石ノ値段ヲ云フ

最低相場
賣買立會中最モ低キ一石ノ値段ヲ云フ

平均相場
賣買シタル總代金ヲ其總數量ニテ除シタル一石ノ價
段ヲ云フ

第十四章 帳 簿

第百一條 當取引所ニ於テ使用スヘキ諸帳簿ハ役員會ニ
於テ定メタル名目用法ニ依リ之ヲ整頓スヘシ

第百二條 仲買人其業務上使用スヘキ諸帳簿ハ仲買人組
長ニ於テ其名目用法ヲ議定シ理事長ニ届出テ其承諾ヲ
受ケ之ヲ整頓スヘシ

第百三條 仲買人其業務上使用スヘキ諸帳簿ハ其紙數ヲ
附記シ當取引所ノ檢印ヲ受クヘシ

第百四條 仲買人ハ理事長ニ於テ帳簿ノ檢閲ヲ要求スル
トキハ何時ニテモ之ヲ差出シ其尋問ニ答フヘシ

第百五條 當取引所ノ諸記録ハ目次編纂シ役員會ニ於テ
定メタル方法ニ依リ之ヲ保存ス

第十五章 出納決算

第百六條 當取引所事業年度ハ六ヶ月トシ毎年一月ヨリ

六月マテヲ上半期七月ヨリ十二月マテヲ下半期トシ一
月七月ノ總會ニ於テ前期ノ決算ヲ決議ス

第百七條 總會ニ於テ決議シタル當取引所ノ財産目錄及
貸借對照表ハ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百八條 當取引所ハ總收入金ノ内ヨリ税金及諸經費並
損失金ヲ引去リタル殘額ヲ純益トシ左ノ各項ヲ控除シ
タル金額ヲ以テ株主ニ配當ス

準備積立金 純益金百分ノ五ヨリ二十マテ
役員賞與金 純益金百分ノ五ヨリ十二マテ

第百九條 準備積立金ハ非常ノ災害其他格段ノ事故アル
トキハ總會ノ決議ヲ經テ支出スルコトヲ得此場合ニ於
テハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第百十條 當取引所ニ於テ損失ヲ來シ資本金ノ缺額ヲ生
シタルトキハ直ニ臨時總會ヲ開キ其實情ヲ報告シテ處
分ノ方法ヲ決議スヘシ

第百十一條 當取引所ノ所有金及預リ金保管方法ハ總會
ノ決議ヲ經テ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

三一

第十六章 仲 裁

第十二條 仲裁委員ハ當取引所ニ於テ爲シタル賣買取引ニ關シ仲買人相互間又ハ仲買人及其委託者間ニ起リタル紛議ニ付双方ノ合意ヲ以テ請求アルトキ之ニ對シテ判斷ヲ與フルモノトス

第十三條 仲裁委員ハ其定員ヲ六名トシ内三名ハ取引所役員互選ヲ以テ之ニ任シ三名ハ仲買人中ヨリ投票ヲ以テ選出シ委員中ヨリ委員長一名及代理者一名ヲ互選ス

第十四條 仲裁委員ノ任期ハ壹ケ年トシ毎年一月其總員ヲ改選スルモノトス、但委員ハ再選スルコトヲ得

第十五條 仲裁委員ノ定數ニ缺員ヲ生シタルトキハ第一百十三條ノ手續ニ依リ之ヲ補充スヘシ

第十六條 仲裁ヲ請フ者アルトキハ委員長之ヲ受ケ委員中ヨリ二名以上ノ係員ヲ選任シ其事件ヲ取扱ハシム

第十七條 仲裁判斷ハ係員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス若シ

同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第十八條 仲裁ヲ請フ者ハ其事柄ヲ口頭ヲ以テ申出ツヘシ、但委員ニ於テ必要ト認ムルトキハ書面ヲ差出サシムヘシ

第十九條 仲裁ヲ請フ者ハ其取調ヲ受クルニ當リ自身出頭スヘシ已ムヲ得サル事故アルトキニ限り係員ノ承認ヲ經テ代人ヲ出スコトヲ得、但辯護士ヲシテ代人ト爲スコトヲ得ス

第二十條 仲裁上係員ニ於テ必要ト認ムルトキハ證人ノ出頭ヲ求ムルコトアルヘシ

第二十一條 仲裁ノ判斷ハ書面ヲ以テスヘシ其書面ニハ委員長及係員一同署名捺印スヘシ

仲裁委員ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ニ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ預ケ置クヘシ

第二十二條 仲裁ニ關スル費用ハ係員ノ指示シタル者ヨリ差出スヘキモノトス

第二十三條 仲裁係員ハ其仲裁事件ニ關シ顧問官ヲ置

第十八章 營業細則

第二十八條 此定款ニ規定スルモノヲ除クノ外市場開閉賣買及受渡違約處分倉庫其他必要ノ事項ハ營業細則ヲ以テ之ヲ定ム

營業細則ハ役員會ニ於テ之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ經テ施行ス

第十七章 違約處分

キ又ハ之ヲ仲裁ノ席ニ參セシムルコトアルヘシ

第二十四條 前數條ノ外仲裁判斷ニ關スル必要ノ事項ハ民事訴訟法仲裁判斷ノ規定ニ依ル

第二十五條 手数料諸證據金及受渡規定等ニ違背シタル者又ハ賣買損益決済ヲ怠リタル者ハ違約人ヲ以テ處分スヘシ

第二十六條 仲買人ニ於テ其營業上法令並定款諸規則等ニ違背シ又ハ不正事實ノ所爲アリト認ムルトキハ役員會ノ評決ヲ以テ五百圓以下ノ過怠金ヲ徵收ス

但過怠金ヲ課シタルトキハ其事由ヲ詳記シ農商務大臣ニ申告スヘシ

第二十七條 第二百二十五條第二百六條ニ該當スル者アルトキハ役員會ノ評決ヲ以テ其仲買人ヲ除名スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ施行ス

第十九章 解 散

第二十九條 株主總會ニ於テ當取引所ノ解散ヲ決議シタルトキハ株主ノ選舉ヲ以テ二名以上ノ清算人ヲ選舉シ一切ノ事務ヲ處辨セシムヘシ

第二十章 定款變更

第三十條 此定款ヲ變更スルトキハ株主總會ノ決議ヲ

以テ之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行ス
 附 則
 第三百一十一條 當取引所ノ初期ノ選舉ニ於テ當選シタル
 役員ハ明治二十九年一月ニ於テ之ヲ改選スルモノトス

同 一〇年	同 一一年	同 一二年	同 一三年	同 一四年
上 半 期	上 半 期	上 半 期	上 半 期	上 半 期
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
下 半 期	下 半 期	下 半 期	下 半 期	下 半 期
〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
二〇〇〇 二〇〇〇 二〇〇〇	二〇〇〇 二〇〇〇 二〇〇〇	二〇〇〇 二〇〇〇 二〇〇〇	二〇〇〇 二〇〇〇 二〇〇〇	二〇〇〇 二〇〇〇 二〇〇〇
五・一〇〇 五・〇〇〇 五・〇〇〇	三・二〇〇 三・一〇〇 三・一〇〇	二・八〇〇 二・八〇〇 二・八〇〇		



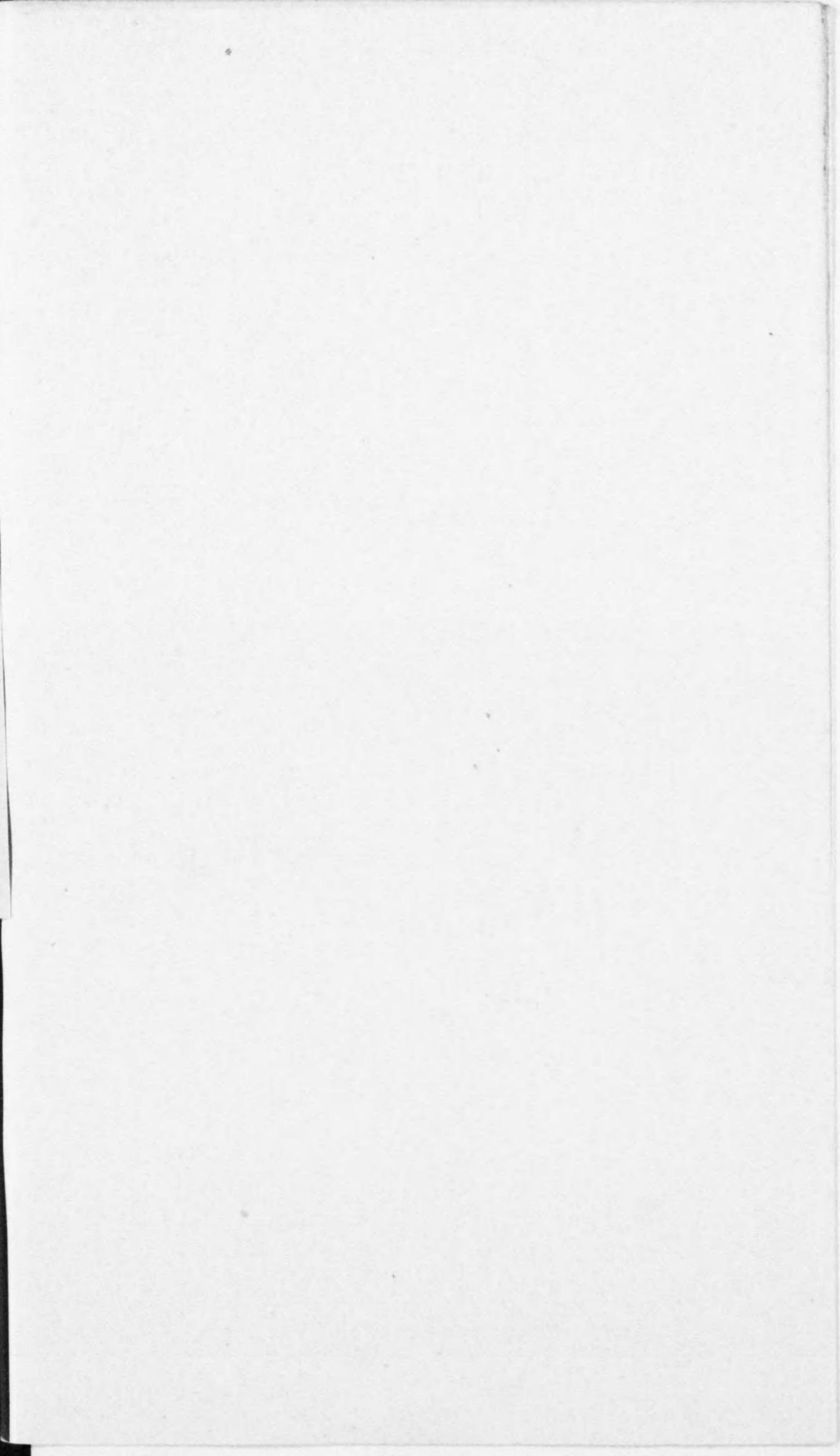
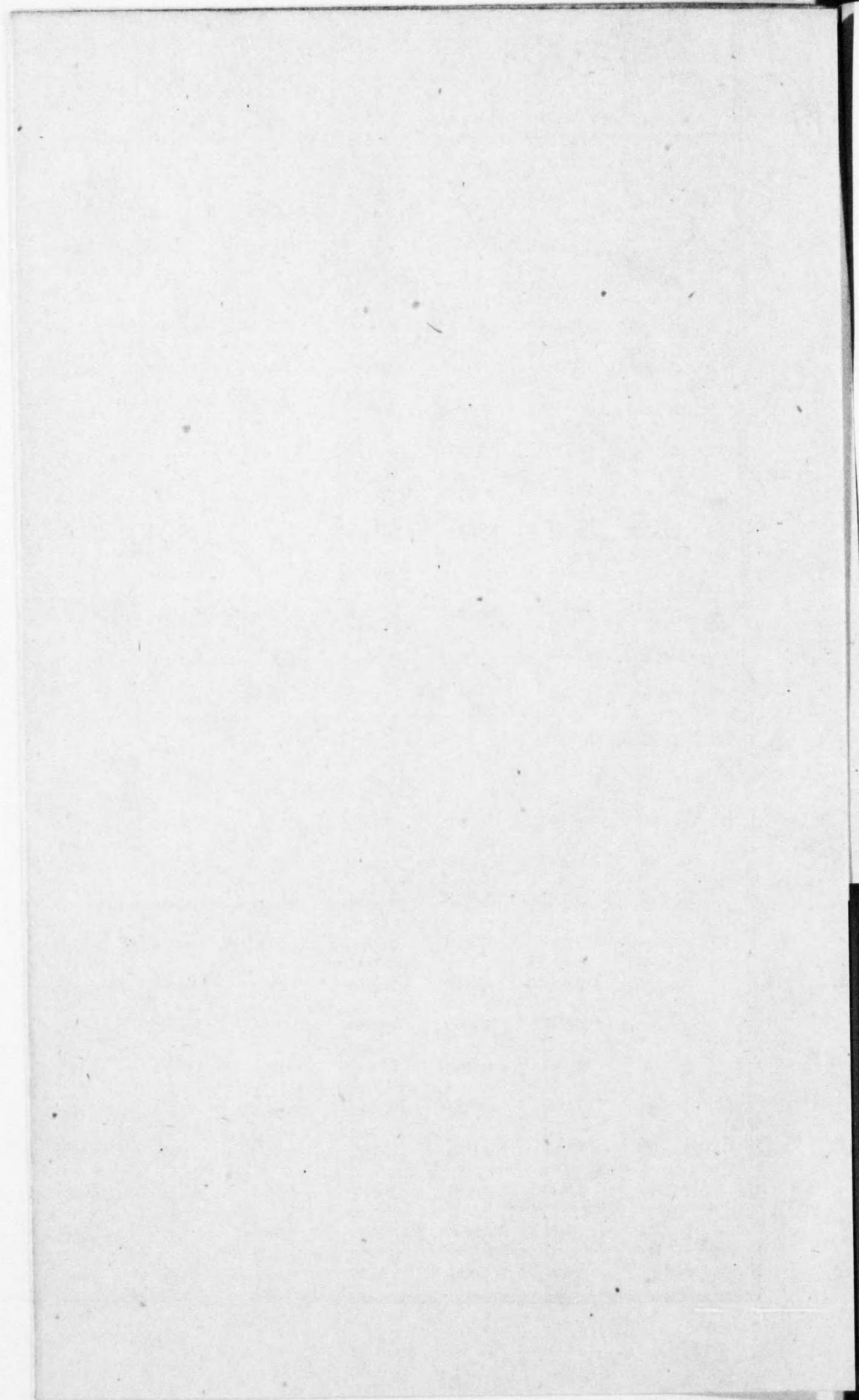
自明治廿七年上半年至昭和十四年下半期 資本金及配當率一覽表

年次	資本金	拂込金額	一株拂込金額	配當率	備考
明治二七年	四〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二二・五〇		内倉庫資本金壹萬圓 營業資本金參萬圓
同 二八年	四〇〇、〇〇〇	三三、七〇〇	二二・五〇		倉庫資本金八千圓ヲ減少ス
同 二九年	三三二、〇〇〇	三三、〇〇〇	二〇・五五		資本金參萬貳千圓ヲ増額ス
同 三〇年	六六四、〇〇〇	六六、〇〇〇	二一・三〇		
同 三一年	六六四、〇〇〇	六六、〇〇〇	二一・〇〇		
同 三二年	六六四、〇〇〇	六六、〇〇〇	二一・〇〇		
同 三三年	六六四、〇〇〇	六六、〇〇〇	二一・〇〇		
同 三四年	六六四、〇〇〇	六六、〇〇〇	二一・〇〇		
同 三五年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・六〇		資本金參萬六千圓ヲ増額ス
同 三六年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・四七		
同 三七年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・二〇		
同 三八年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・四一		
同 三九年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・三五		
同 四〇年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・三五		
同 四一年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・四四		
同 四二年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・四四		
同 四三年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・七五		
同 四四年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・七五		
大正元年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・九五		
同 二年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・五六		
同 三年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・六五		
同 四年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・九五		
同 五年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・五八		
同 六年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一一・〇〇		
同 七年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二二・〇〇		
同 八年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二二・〇〇		
同 九年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二四・五〇		
同 一〇年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二四・五〇		
同 一一年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五一・〇〇		
同 一二年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三一・五〇		
同 一三年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二・八〇		
同 一四年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二・八〇		
昭和元年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五五・〇〇		
同 二年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一五・〇〇		
同 三年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇・〇〇		
同 四年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一一・五〇		
同 五年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一一・二〇		
同 六年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・八〇		
同 七年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・八〇		
同 八年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・六六		
同 九年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・六六		
同 一〇年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇・四〇		
同 一一年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇			
同 一二年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇			
同 一三年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇			
同 一四年	一〇六、〇〇〇	一〇、〇〇〇			

實物取引開始以來月別賣買高表

(單位石)

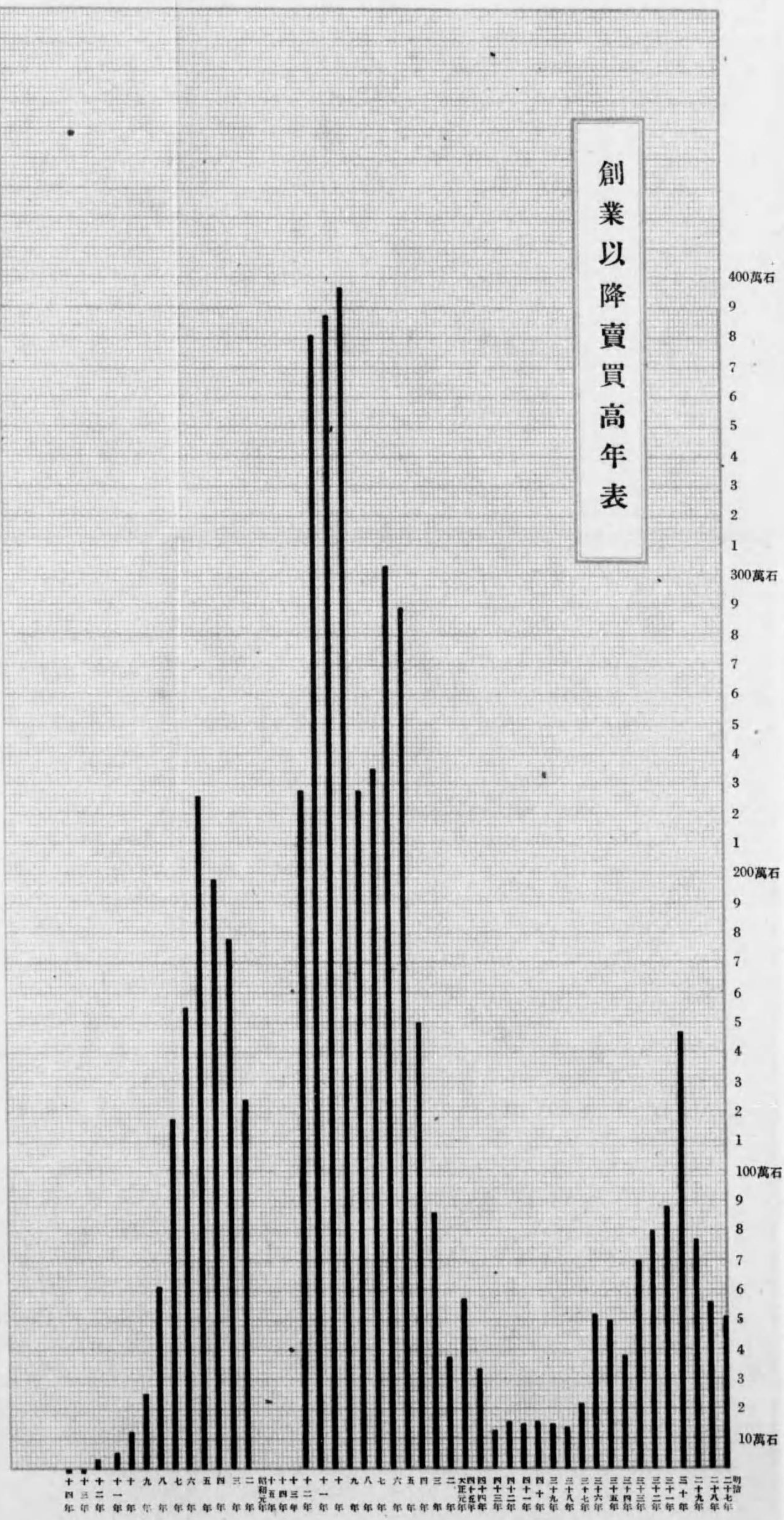
月別 年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	期別計	年計
昭和四年														
五年	1,793,6	1,149,8	2,004,0	2,014,8	1,374,0	1,751,6	2,712,0	3,134,4	2,701,0	2,495,6	1,280,0	2,770,8	1,396,0	1,396,0
六年	1,861,2	1,244,2	1,398,4	1,391,6	1,311,6	1,220,4	2,619,2	1,892,8	2,971,6	3,017,2	1,878,8	2,749,2	8,427,4	23,556,2
七年	3,919,2	1,769,2	2,768,8	2,022,4	1,693,6	1,838,4	1,598,0	1,956,8	1,897,2	1,366,4	1,734,8	3,678,0	14,011,6	26,242,8
八年	3,042,4	1,654,8	1,362,4	1,449,2	1,532,4	1,375,6	1,537,2	1,326,4	1,531,6	1,765,2	2,072,0	2,856,4	10,416,8	21,505,6
九年	3,958,0	1,711,2	1,180,4	1,656,0	1,996,0	1,566,4	1,278,4	894,8	611,2	562,8	694,8	1,055,6	12,068,0	17,165,6
十年	3,396,4	1,752,8	2,524,8	1,630,0	1,275,0	1,246,4	814,4	765,2	757,6	881,6	1,079,2	1,131,2	11,825,4	17,254,6
十一年	1,084,4	1,055,6	1,597,2	1,593,2	1,113,6	862,0	340,8	234,0	492,0	308,0	127,6	374,0	7,306,0	9,182,4
十二年	922,8	999,2	1,246,8	1,552,0	1,411,6	1,281,2	210,8	419,6	594,4	461,6	162,4	439,2	7,413,6	9,701,6
十三年	1,604,8	833,2	1,172,0	1,788,8	900,4	668,0	358,0	307,2	290,8	326,8	210,0	582,0	6,967,2	9,042,0
十四年	1,229,2	952,4	721,2	657,2	1,003,6	722,8	290,0	290,8					2,074,8	4,563,6



三十八年	11,880	9,990	7,960	8,020	8,460	10,500	7,160	休業	25,130	22,950	16,130	9,670	56,810 81,040	137,850
三十九年	9,380	8,010	10,280	7,040	8,020	8,030	12,670	11,190	19,200	29,320	17,670	6,510	50,760 96,560	147,320
四十年	13,220	11,630	12,600	9,320	10,820	9,160	16,880	15,210	19,330	19,340	10,120	11,960	66,750 92,840	159,590
四十一年	17,420	9,990	7,150	8,270	9,290	9,870	13,140	13,380	20,750	12,420	10,250	10,500	61,990 80,440	142,430
四十二年	9,540	12,140	13,070	18,660	11,920	12,390	15,840	12,230	14,100	18,720	18,720	10,250	77,720 89,860	167,580
四十三年	10,820	9,640	9,950	9,940	9,030	8,780	12,550	20,160	14,080	15,170	13,810	15,490	19,520 91,260	110,780
四十四年	10,310	14,000	16,510	13,760	14,640	11,430	51,450	50,530	42,700	30,360	31,250	53,860	80,650 260,150	340,800
大正元年	55,650	56,980	39,740	5,710	休業	〃	15,420	45,050	91,970	54,420	98,020	113,120	158,080 418,000	576,080
二年	54,810	50,090	29,480	24,180	18,880	14,740	19,460	30,290	34,610	36,690	34,170	31,350	192,180 186,570	378,750
三年	30,040	35,690	31,100	29,030	33,320	23,330	27,000	45,320	176,500	135,960	143,230	162,790	182,510 690,800	873,310
四年	100,680	61,910	40,450	46,370	48,300	64,500	63,550	138,950	286,400	254,700	208,050	186,550	362,210 1,138,200	1,500,410
五年	170,300	150,200	126,600	110,300	104,350	133,750	232,650	296,550	426,800	312,500	405,450	425,150	795,500 2,089,100	2,884,600
六年	267,850	242,550	236,850	166,100	249,650	379,250	272,200	289,500	200,050	330,300	228,450	158,250	1,642,250 1,478,750	3,121,000
七年	196,600	242,400	198,900	169,650	321,850	181,000	289,750	1,000	108,300	185,200	226,800	227,100	1,310,850 1,038,150	2,349,000
八年	145,950	121,950	256,550	143,000	127,400	175,000	212,950	143,050	188,050	303,500	187,800	222,100	969,850 1,257,450	2,227,300
九年	185,700	204,900	297,100	429,750	388,550	584,950	285,150	279,700	408,850	327,700	20,300	317,500	2,090,950 1,875,900	3,966,850
十年	245,750	167,750	132,350	185,100	158,650	111,700	214,500	368,400	497,500	571,950	367,100	323,750	1,001,300 2,843,200	3,844,500
十一年	254,900	238,600	359,900	232,000	260,200	220,700	293,700	516,900	576,200	362,600	221,700	168,400	1,566,300 2,239,500	3,805,800
十二年	257,700	250,500	247,000	197,700	251,900	276,900	293,700	516,900	休業	〃	〃	〃	1,481,700 810,600	2,292,300
十三年	休業	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	—
十四年	休業	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	—
昭和元年	休業	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	—
二年	休業	〃	〃	60,500	54,300	94,300	159,600	211,700	212,500	171,400	168,500	121,400	209,100 1,045,100	1,254,200
三年	105,500	89,200	72,300	55,400	74,900	95,300	176,500	280,100	351,000	262,000	105,100	105,600	492,600 1,280,300	1,772,900
四年	83,400	59,500	63,200	84,000	96,400	79,400	285,200	214,800	309,200	338,700	217,900	139,600	465,900 1,505,400	1,971,300
五年	94,300	62,000	131,300	107,200	134,500	187,900	235,700	316,200	374,800	295,200	190,000	136,500	718,200 1,548,400	2,266,600
六年	122,900	76,400	85,100	79,200	60,900	87,600	168,700	246,900	259,600	126,100	75,900	115,900	512,100 993,100	1,505,200
七年	124,400	78,500	74,300	70,400	106,500	105,500	122,300	130,100	124,200	64,700	60,800	107,200	559,600 609,300	1,168,900
八年	130,900	86,700	48,800	25,600	32,000	44,100	47,600	68,400	52,400	22,000	23,000	19,400	368,100 232,800	600,900
九年	29,500	22,600	16,200	21,100	27,600	26,100	20,200	22,500	18,200	21,000	19,100	15,000	143,100 116,000	259,100
十年	12,000	10,600	7,600	7,900	7,000	7,100	10,000	8,300	17,900	15,400	10,400	7,800	52,200 69,800	122,000
十一年	8,100	2,800	5,700	1,500	2,300	3,200	1,600	,800	5,900	2,100	1,300	1,000	23,600 12,700	36,300
十二年	5,300	2,000	2,300	1,700	1,100	1,000	3,100	1,300	1,800	1,700	1,400	,800	13,400 10,100	23,500
十三年	,600	,400	,900	,600	,400	,400	,400	,500	,300	,400	,400	,200	3,300 2,200	5,500
十四年	,200	,200	,200	,200	,200	,200	,200	,200	—	—	—	—	1,200 ,400	1,600

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

創業以降賣買高年表



十四年 十五年 十六年 十七年 十八年 十九年 二十年 二十一年 二十二年 二十三年 二十四年 二十五年 二十六年 二十七年 二十八年 二十九年 三十年 三十一年 三十二年 三十三年 三十四年 三十五年 三十六年 三十七年 三十八年 三十九年 四十年 四十一年 四十二年 四十三年 四十四年 四十五年 四十六年 四十七年 四十八年 四十九年 五十年 五十一年 五十二年 五十三年 五十四年 五十五年 五十六年 五十七年 五十八年 五十九年 六十年

創立以來各限月最高最低平均高表 (單位圓)

Table with columns for years (e.g., 明治二十七年, 大正元年, 昭和二年) and 12 months, each with sub-columns for highest, lowest, and average values.

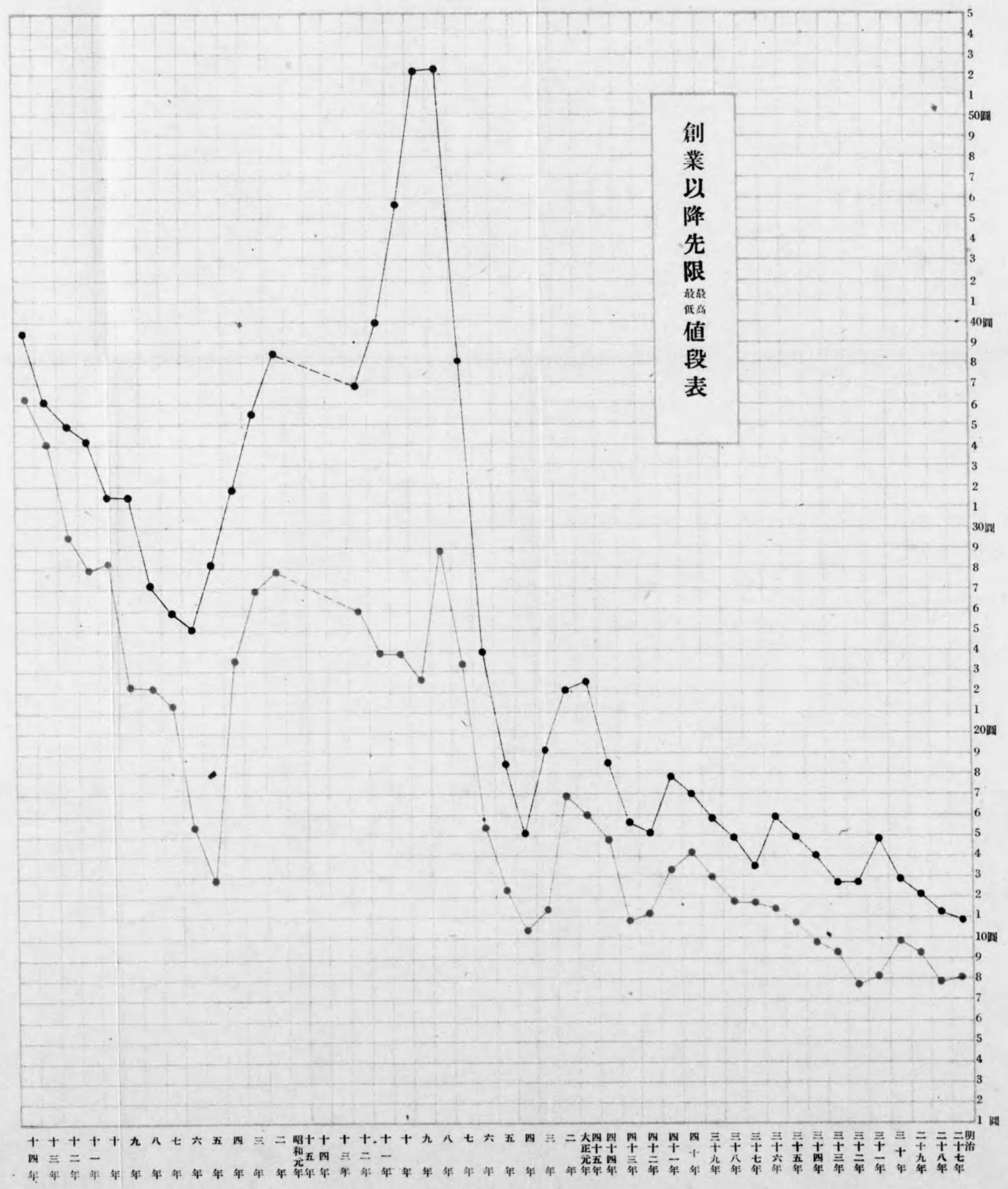
創立以來先限最高最低值段表 (圓位單)

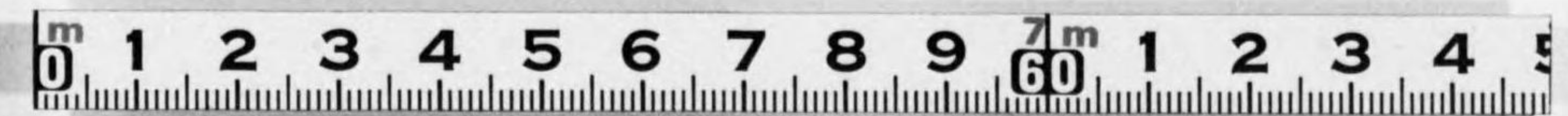
年次	最高	最低	平均	年次	最高	最低	平均
明治二十七年	10.58	8.12	9.42	大正七年	38.20	23.13	27.95
二十八年	11.35	8.02	9.68	八年	52.40	29.05	37.66
二十九年	12.10	9.27	10.28	九年	52.32	22.60	35.69
三十年	12.79	9.73	10.80	十年	45.20	24.10	31.72
三十一年	14.88	8.06	11.47	十一年	40.00	24.00	32.43
三十二年	12.55	7.76	10.50	十二年	36.85	26.00	32.88
三十三年	12.35	9.24	10.79	十三年	—	—	—
三十四年	14.09	9.94	12.01	十四年	—	—	—
三十五年	14.65	10.83	14.06	昭和元年	—	—	—
三十六年	15.90	11.47	13.54	二年	38.60	27.93	33.31
三十七年	13.40	11.78	13.12	三年	35.29	26.84	30.45
三十八年	15.00	11.90	13.43	四年	30.19	23.62	27.87
三十九年	15.79	13.30	13.79	五年	28.25	12.85	23.47
四十年	17.01	14.50	15.11	六年	24.00	14.62	19.31
四十一年	17.58	13.28	15.43	七年	24.91	20.19	22.55
四十二年	14.80	10.24	13.76	八年	26.38	21.06	23.72
四十三年	15.43	10.97	13.20	九年	30.50	21.29	25.89
四十四年	18.55	14.92	16.73	十年	31.13	28.54	29.83
大正元年	22.56	16.10	18.73	十一年	34.09	27.88	30.98
二年	22.35	17.00	19.51	十二年	34.94	29.55	32.24
三年	18.90	11.27	15.64	十三年	36.30	34.00	35.15
四年	15.01	10.45	13.11	十四年	39.70	36.25	37.98
五年	18.76	12.62	14.39				
六年	24.12	15.19	19.99				

	7
	6
	5
	4
	3
	2
	1
	10圓
	9
	8
	7
	5
	5
	4
	3
	2
	1圓

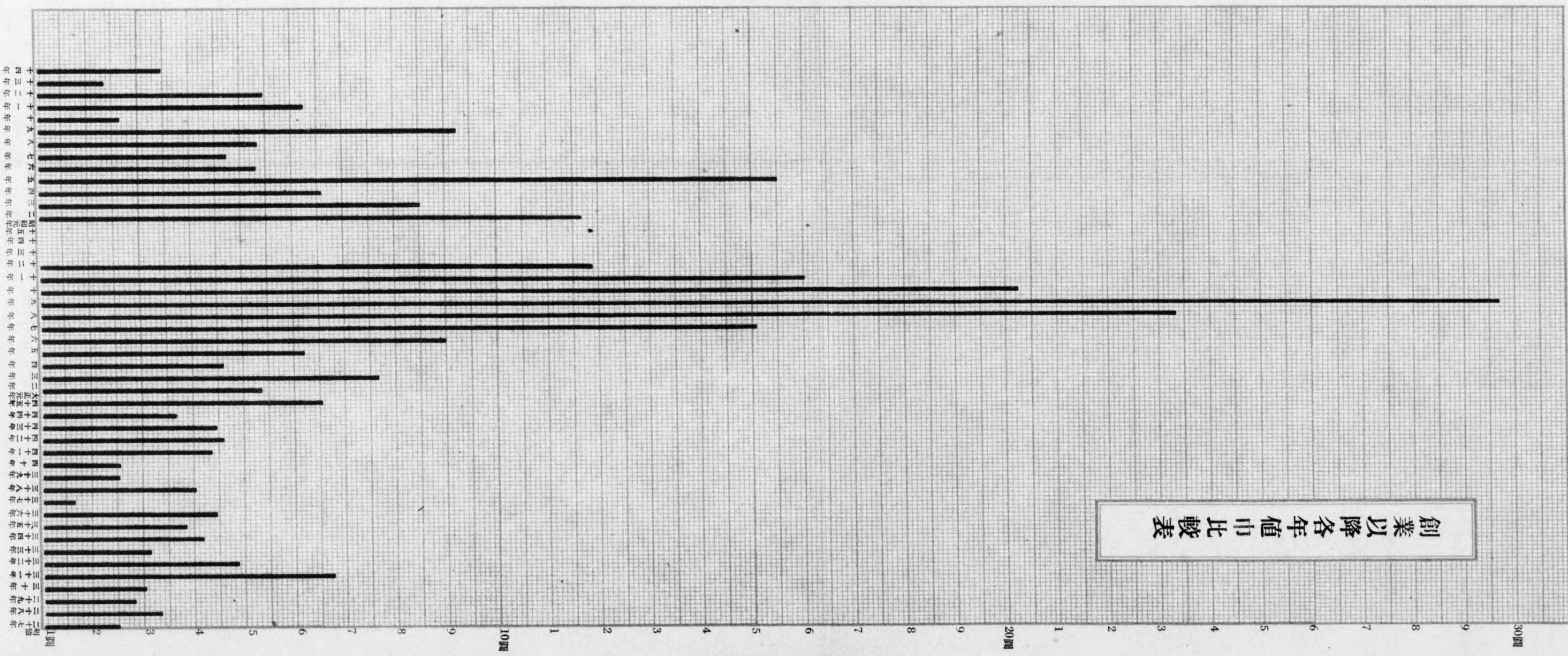
十 十 十 十 十
 四 三 二 一 十
 年 年 年 年 年

創業以降先限
最低最高
値段段表

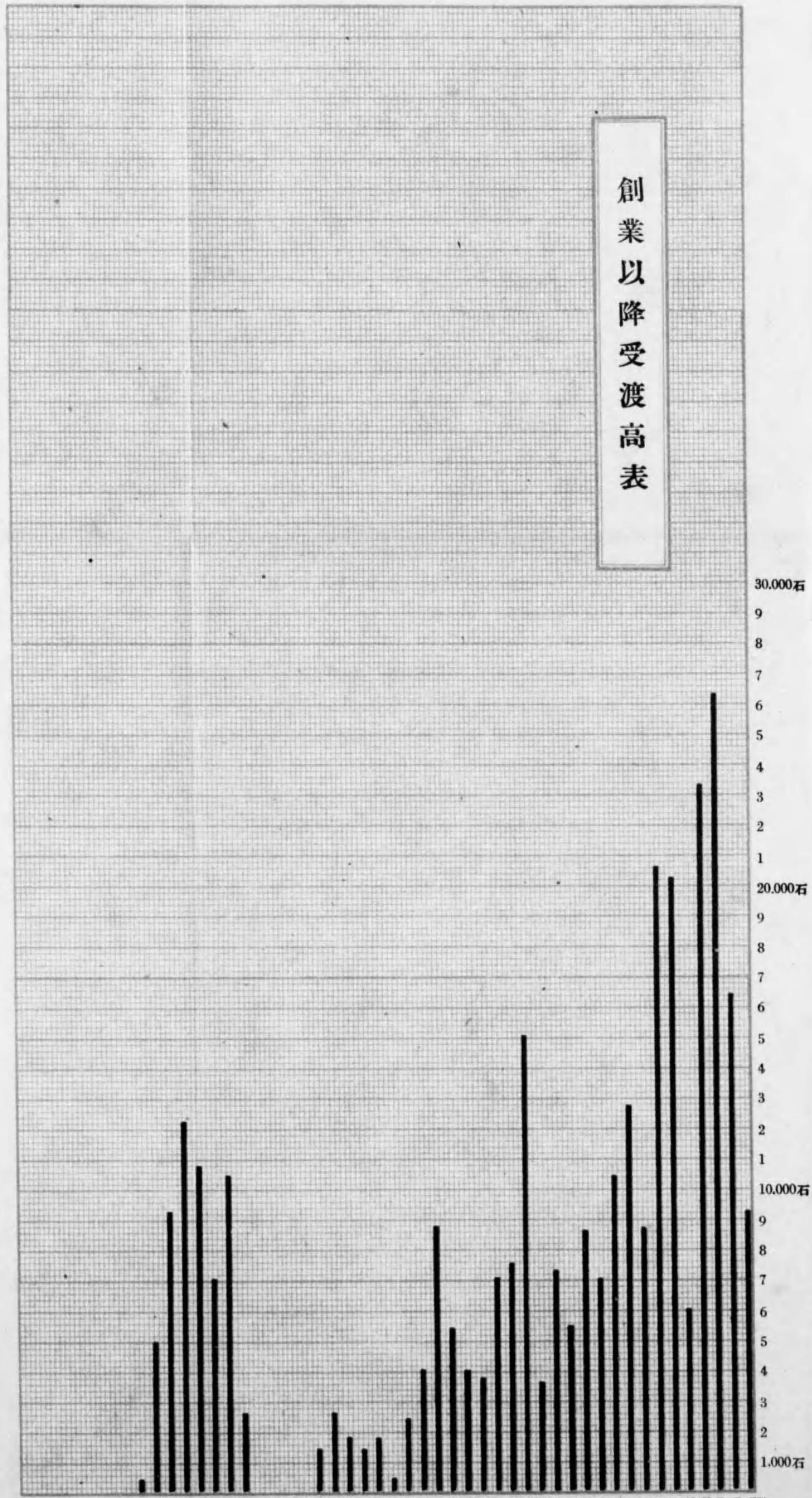




創業以降各年値巾比較表



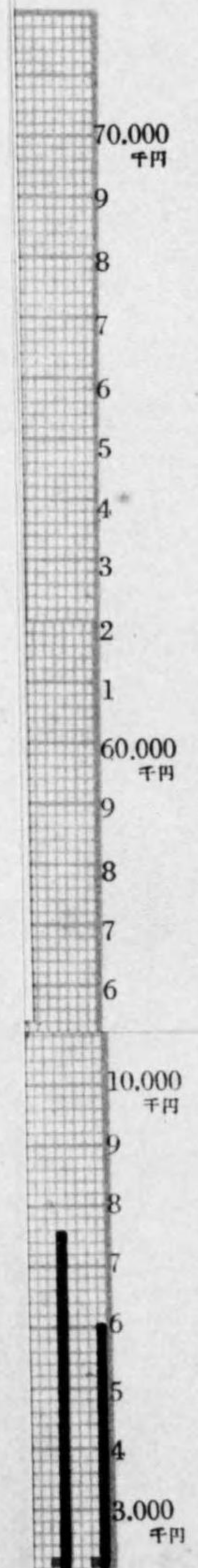
創業以降受渡高表



一九一九年 一九二〇年 一九二一年 一九二二年 一九二三年 一九二四年 一九二五年 一九二六年 一九二七年 一九二八年 一九二九年 一九三〇年 一九三一年 一九三二年 一九三三年 一九三四年 一九三五年 一九三六年 一九三七年 一九三八年 一九三九年 一九四〇年 一九四一年 一九四二年 一九四三年 一九四四年 一九四五年 一九四六年 一九四七年

創立以來賣買手數料及財產收入金額年別表

年 次	賣買手數料	財 產 收 入	年 次	賣買手數料	財 產 收 入
明治二十七年	<small>円</small> 6,060,215	975,584	大正 七 年	32,092,375	8,425,310
二十八年	7,664,330	1,577,363	八 年	41,814,575	8,474,045
二十九年	9,780,000	3,221,133	九 年	67,230,525	13,011,935
三 十 年	22,555,450	9,477,172	十 年	56,934,525	12,933,950
三十一年	25,495,475	8,728,645	十一年	57,426,250	13,379,065
三十二年	10,985,520	5,384,269	十二年	31,799,010	13,326,140
三十三年	10,225,465	4,905,645	十三年	—	13,913,400
三十四年	6,225,570	7,378,253	十四年	—	15,921,390
三十五年	8,730,545	8,147,284	昭和 元 年	—	102,630,900
三十六年	10,346,565	5,821,783	二 年	20,407,760	61,961,110
三十七年	5,682,685	5,348,621	三 年	27,343,210	21,587,520
三十八年	3,523,515	7,606,116	四 年	27,105,950	23,528,440
三十九年	4,172,430	5,335,325	五 年	25,604,290	28,203,090
四 十 年	4,970,465	5,118,032	六 年	14,675,650	15,419,890
四十一年	4,424,695	7,946,333	七 年	13,377,960	18,042,570
四十二年	4,160,280	6,459,487	八 年	8,238,160	19,364,600
四十三年	3,812,435	15,544,547	九 年	3,409,850	19,759,110
四十四年	10,777,840	12,743,509	十 年	1,822,420	25,165,390
大正 元 年	21,034,410	12,667,947	十一年	560,860	10,045,060
二 年	15,691,175	9,827,548	十二年	382,930	12,154,140
三 年	13,801,865	11,362,405	十三年	96,560	11,309,140
四 年	11,025,815	10,973,485	十四年	228,730	10,817,350
五 年	20,759,125	21,553,195			
六 年	30,547,525	15,223,165			



70,000
千円

60,000
千円

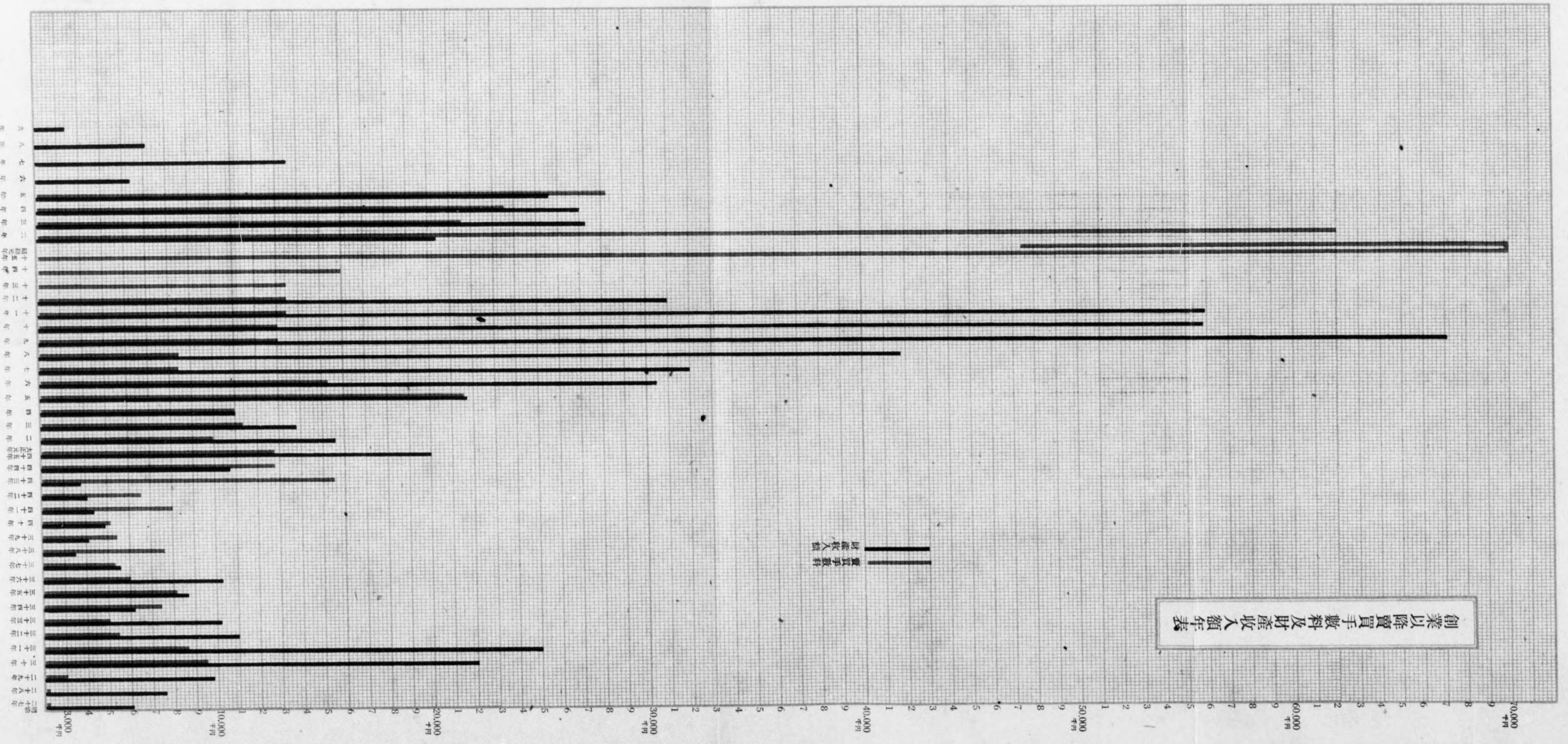
10,000
千円

3,000
千円

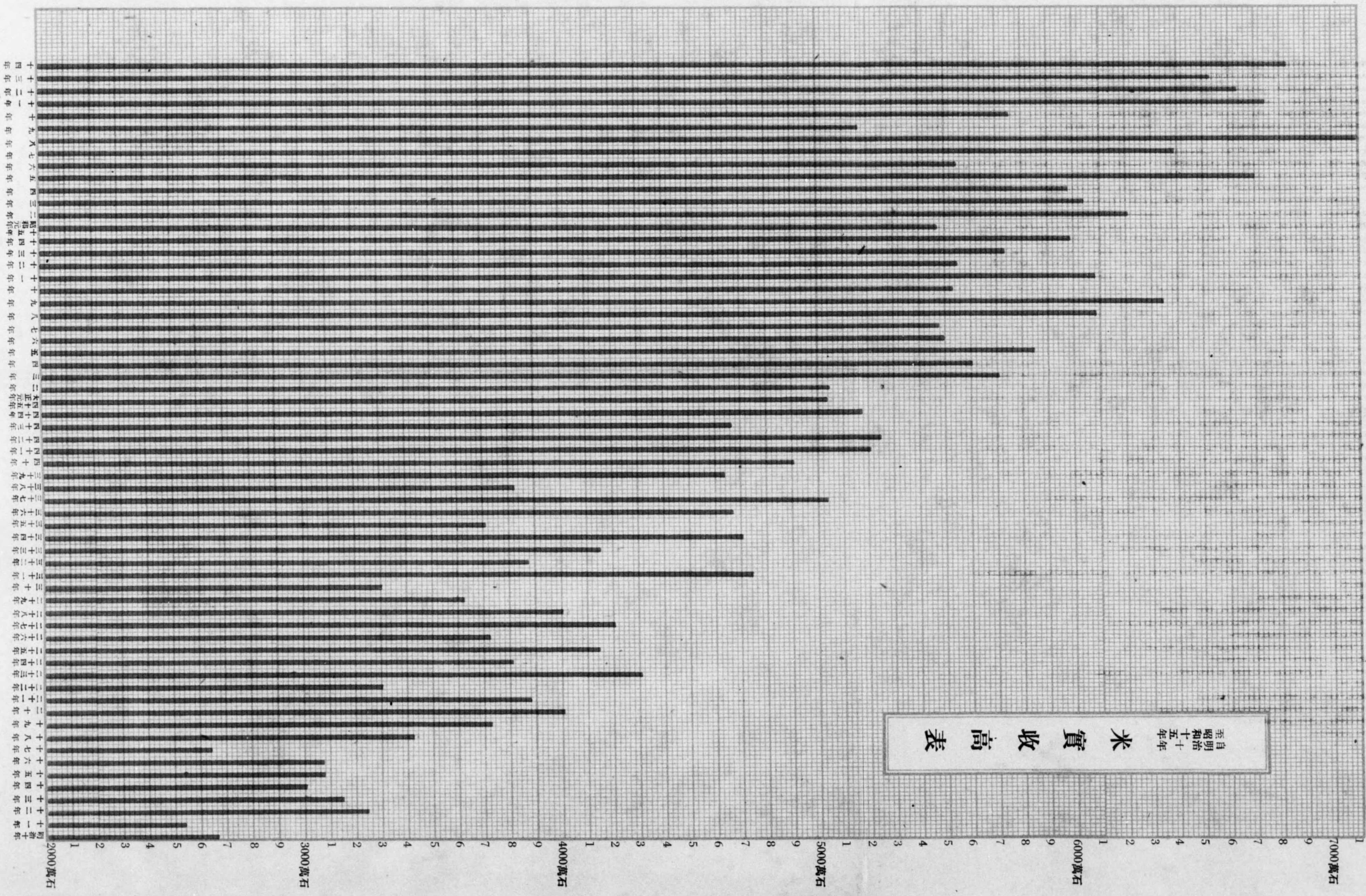
二
期
二
十
七
年
二
十
八
年



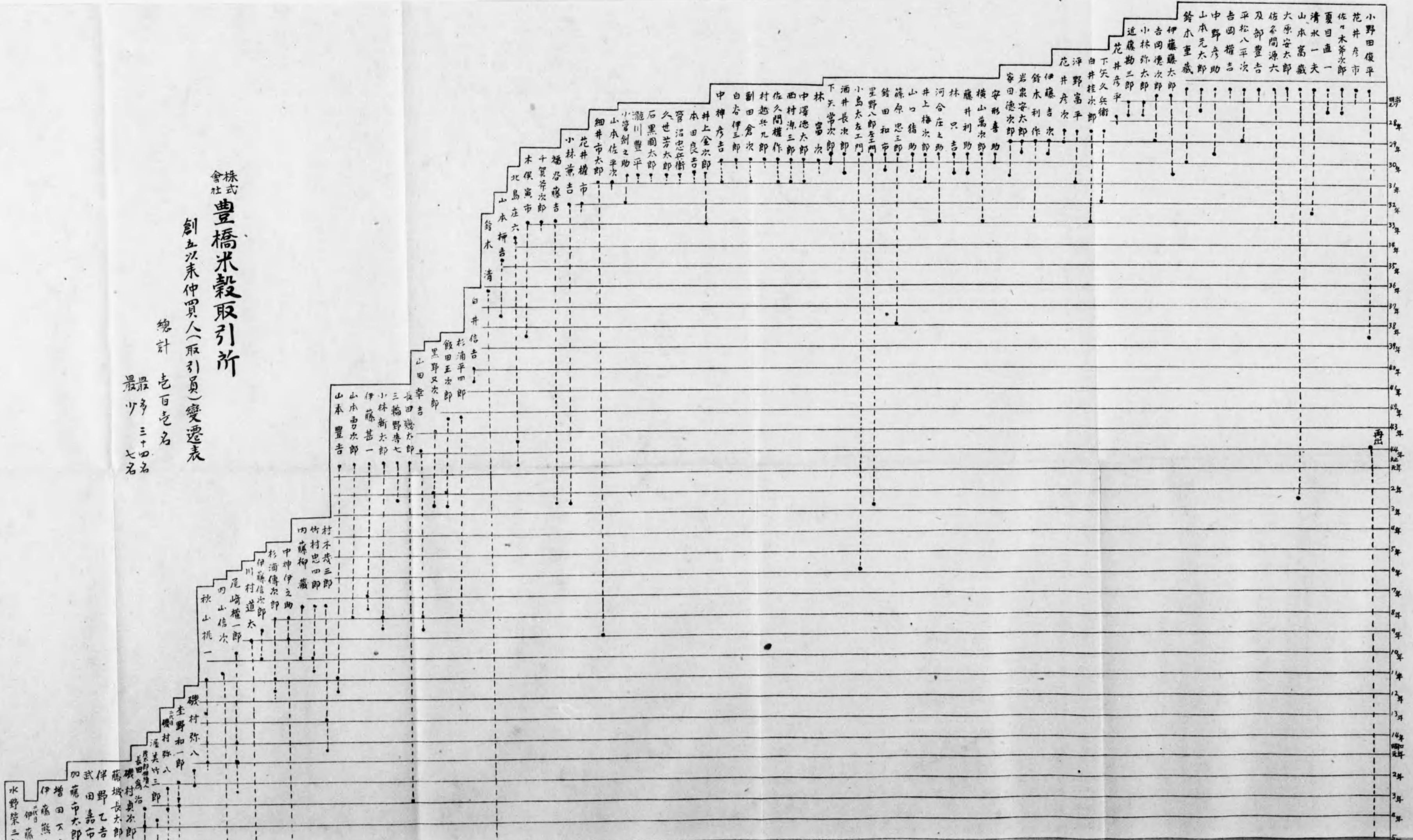
創業以降賣買手數料及財產收入額年表



自明治十年至昭和十五年
米實收高表



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



株式
會社 豊橋米穀取引所
創立以來取引員(取引員)變遷表

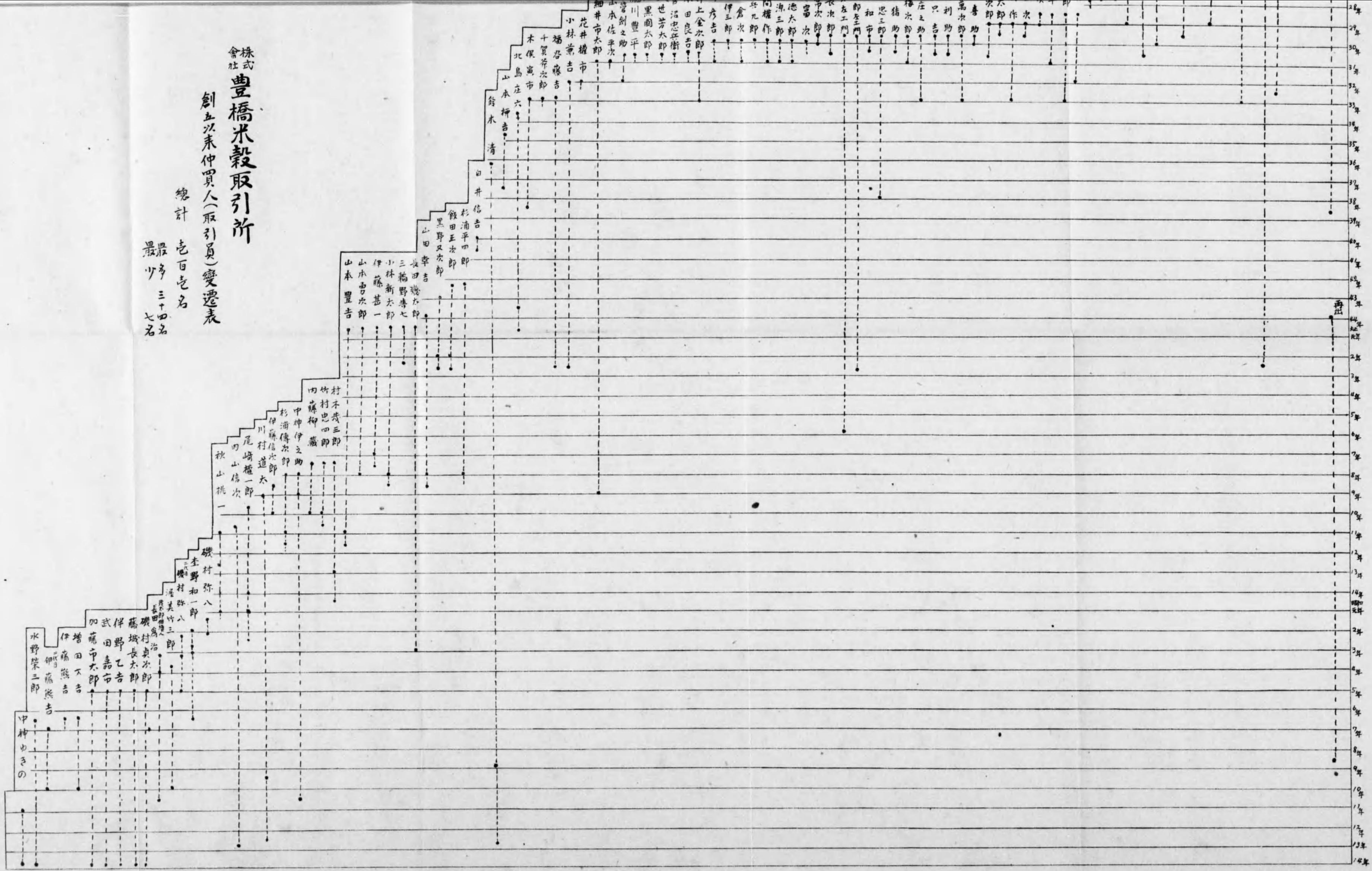
總計 壹百壹名
最多 三十四名
最少 七名

株式會社 豐橋米穀取引所

創立以來仲買人(取引員)變遷表

總計 壹百壹名

最多 三十四名
最少 七名



商 况

明治二十七年

地方一般ヨリ歡呼裡ニ開市シ市場ニ人氣集中スレドモ市況靜穩銀貨低落ト東ノ高報ニ上値ヲ現セシモ氣候適順ニ賣多ク軟弱トナレリ、六月ニ入り朝鮮ニ東學黨ノ内亂古阜ニ起リ遂ニ延テ日清間ノ國際問題トナリ將ニ大事出來トノ警報ニ昂騰氣勢ヲ示シタルモ麥作豐穰在米豐富ナルタメ漸落トナリ日清開戰以後ハ交通機關缺乏シ米ノ輸送ニ障害ヲ來シ各地ノ需給圓滑ヲ缺キ米豐作ニ相場不活潑保合ヲ持續シタリ

明治二十八年

世ハ舉テ戰勝氣分充滿シ商狀頗ル不活潑ニシテ昨年ノ豐作ノタメ高値ハ賣物自ラ多ク日清平和回復說ニ活氣ヲ帶ビ西高ト相俟テ上値トナリ入梅氣候不順土用低溫買氣起リタルト戰後ノインフレーションニ諸物價ノ騰貴ヲ見越シ強氣買進ミ相當高値ヲ示シタルモ新米ノ出穀期トナリ賣物出

テ漸落歩調越年ス

三六

明治二十九年

戰勝財界ノ好況ニ發會セシモ各地ノ小甘キト荷主ノ賣米夥敷不味ニ變シ各月保合中三陸ノ大津波アリ、九月上旬暴風雨襲來各地洪水アリ交通機關杜絶大天災ニ遇ヒシタメ數日間臨時休會シ開始スルモ被害案ジニ買一方ニ傾キ昂騰シ新穀出廻期ニ入ルモ米作減收見込ノ買物多ク高値ヲ現ハシ年末ニ迫ルニ及ビ幾分緩和商況トナリ納會セリ

明治三十年

商況沈靜氣温寒冷ニ過ギ麥作不良ヲ報ジタレドモ相場ハ十一圓内外ノ小巾往來ヲ持續シ天災季無難稻作良好ヲ稱ヘ金貨本位實施後ノ影響見越シナド賣慕ハレ九月ニ入り關東ノ暴風雨被害甚大及北陸地方大虫害等ニ人氣一變場況日ヲ逐テ騰貴シ東京ノ供給不足説ニ外米代用制施行ヲ報ジ暴落爾來小高下ヲ繰返シ納會セリ

株式取引ノ上場ハ三月追加ノ認可アリ開市セシニ相當賣買取引行ハレントセシガ、十月ニ入り

經濟界不振金本位實施期切迫銀行界ノ警戒等原因シ取引減失シ自然休業ノ止ムナキニ至レリ

明治三十一年

新甫下鞞ニ發會セシカ正米筋氣強ク先人氣トナリ十二圓四十四錢ト昂騰シ本所ハ追證據金徵收ノタメ立會ヲ停止セリ、其時ニ於テ三名ノ不納仲買人處分ヲ見シハ遺憾ノ記録ヲ殘セリ、暫ク平穩五日ニ入り外國米代用初度ノ期月ニ際シ強弱ノ懸引キ激烈ヲ極メ市場不穩ニ陥入り再ビ立會ノ停止ヲナセリ停止後開市セシニ外米嫌氣濃厚市場不安ノ空氣充滿セリ、六月ニ入り天候良好豐作見込ミニ軟弱ニ保合ヒ愈々豐作ト定マリ俄然大勢轉換シ停落止マル處ナキ場況ニ再三立會ヲ休止シ解合ヲ行ヒ開市スルヤ新穀出廻リ益々増加セントスル勢ニ遂ニ十二月ニハ八圓〇六錢ニ低落セリ

明治三十二年

前年末動搖ノ後トテ其ノ反動ニ沈靜ヲ極メ市場閑散經濟界ハ稀ナル不景氣ノ状態ナレバ人氣低迷シ商況不味ヲ續ケタリシガ、九月上旬暴風雨各地出水稻作ニ被害甚大ノ見込ミニ買氣旺盛トナリ、十月ニハ十一圓臺ニ飛躍シコノ時北國米續々多量ニ入庫シ倉庫充滿シ倉不足修繕不行届ノ批

三七

難アリ増築營繕ヲナシタリ、相場ハ一高一低ヲ示シツ、收穫期ニ至リ北國及東海道鎌入不足ヲ稱
ヘ東西ノ暴騰ニ拾貳圓臺ヲ現セリ

三八

明治三十三年

新甫十二圓〇九錢ニ發會シタルモ經濟界不振商況不良加フルニ氣候順調ノタメ漸落シ、五月ニ
入り正米ノ出廻リ多ク其ノ影響ニテ大阪安値ヲ稱ヘタレバ一層崩落ヲ來シタリ、折柄北清事變起
リ各地一齊ニ高ク活氣ヲ呈シ急騰セリ、土用照リ込ミ中分ナク豐作見込ミニテ再落シ收穫悲觀ニ
下支ヘ小戻リ餅搗キ相場ヲ繰返シツ、納會セリ

明治三十四年

戰後反動的商業萎縮シ米界振ハズ歎聲嵩マリ人氣軟弱ニ偏シタル結果入梅期ノ不順ニ少シク活
氣ヲ現シ、七月ニ入り正米氣丈日々ニ活氣ヲ帶ビ、八月ニハ現米缺乏説ニ相場暴騰シ東西各地市
場數日ノ休止ヲナシタルガ本所ハ無事ニ經過シタリ爾後漸落步調ニ活氣ナク平穩ニ納會セリ

明治三十五年

昨年來不景氣ノ餘波ヲ蒙リ人氣消沈シ米價安値ニ傾キタレバ生産者賣吝ミ自然正米不足ヲ招キ
順次上進ヲ辿リ氣候不順麥作案ジ等ニ買物輻輳シ入梅期ニ入り適雨アリ大阪安ニツレ軟化シ天災
季ニ至リ不順勝チニテ土用潰レトナリ各地出水被害アリ且過冷稻作不良ヲ傳ヘ昂騰センガ其後天
候回復正米モ出廻リ軟弱彼岸ニ入り暴風雨襲來シ市況一變シ昂騰シ各地高ト相俟テ大暴騰ヲ續ケ
近來稀ナル強調裡ニ納會セリ

明治三十六年

新春氣候不順ト日露外交問題ノ影響ニテ各月上進ノ氣勢ヲ示シ遂ニ十五圓九十錢ト云フ近來稀
有ノ高相場ヲ現センモ其後活氣ナク一高一低ヲ繰リ返シ天災季ノ天候適順稻豐作ヲ唱ヘラレ一方
ニハ外米輸入ニ一層崩落センモ爾後虫害又ハ違作唱ヘラレ且外交案シニ稍々反撥シ十二圓五十錢
ヲ以テ越年セリ

三九

明治三十七年

四〇

新甫平穩發會シ日露外交問題ノ切迫ハ市場頗ル活氣ヲ含ミ大麥ノ暴騰ニ上伸セリ其時ニ外米ノ大輸入ノ報及日露開戦ノ火蓋ヲ切りタル後ハ商工業一般前途逆睹スベカラザル懸念ヨリ消極的ニ傾キ殊ニ戰時特別稅施行ハ一層人氣ヲ沮喪シ米界ハ只保合ヲ持續セシガ戰捷ノ報並ニ軍用米買上ニ稍々上向キタリ、七月ニハ大ストーム襲ヒ豊川筋未曾有ノ大洪水被害甚大ナリシカバ各地モ定メシ大被害ヲ蒙リシナラント思ハレシモ當地方ニ極限サレ全國的豐作ニ下向ニ變化シ高低ノ範圍狭少ニテ十一月ニ入り録入不足外米課稅說軍需米徵收ノ聲ニ騰貴セシモ歲末ニ至リ低迷不活潑ニ納會セリ

明治三十八年

新春元旦旅順陥落ノ報ヲ受ケ活氣ヲ示セシガ各地米潤澤ニシテ高値警戒日々低落シ麥不作說ニ小戾シ入梅好雨アリ適順ニ一層低下シ日露戦局モ海陸ノ捷報ニ人氣沸騰シ土曜入ニ氣候不順東北ノ大凶作ヲ傳ヘラル、等彼是相倚ツテ漸次昂上セシガ高値ニ連レ賣物出デ前年ノ豐作ノタメ殘存米市場ニ集リ爲メニ次第ニ引弛ミ勝チノ平靜裡ニ納會セリ

明治三十九年

日露國交平和克復ノ新年ヲ迎ヘ舊節季關係ニテ正米益々出廻リ商狀軟弱トナリ其後古米ノ不揃ニ引立タズ前天災季ニ入り稍々活氣ヲ帶ビタレド上進ヲ見ザリシ稻出穂ノ時期ニ過冷作柄案ジ豐年說モ打消サレ相場ノ變動甚敷此間頗ル盛況裡ニ納會セリ

明治四十年

新甫ハ好景況前途囑望セラレ發會シ二月ニ株式界ノ暴落アリタレドモ米界ハ波瀾少ク商勢鈍狀ヲ呈シ小巾往來ヲ持續シ米作良好ヲ傳ヘ一層沈靜トナリ八月下旬關東山陰風水害甚大ト報ゼラレ一時波瀾ヲ見タルモ全國的米作ニ影響輕微說ニテ天災季モ珍シク不振ニ過ギ歲末ニ迫リ豐作ト認メラレ財界緊縮ハ大ニ米界ノ打撃トナリ連日低落セリ

明治四十一年

前年不況ヲ受ケ世中不景況諸物價下落ノ聲起リ轉換好材料ナク金融逼迫其ノ他ノ事情等綜合シ

四一

テ頗ル不振ヲ極メタリ五月ノ前天災季ニ入り冷氣甚シク關東地方降雪ナド不順ノ兆アリテ從來ノ形勢一變シ日々昂上遂ニ十六圓五十一錢ノ高値ヲ現セリ、然ルニ土用入後天候順次回復シ照込充分稲作佳良ナルニ漸ク下足ヲ示シ五千三百萬石ノ大增收豫想發表ニ日一日ト低落シ十二月ニ入り十三圓二十八錢ノ安値ニ陥入り其反動買ニ十四圓丁度ニテ納會セリ

明治四十二年

一般財界不景氣ト昨年豐作トハ賣出米多クシテ期米モ漸落セリ入梅雨量少ク挿苗案ジト外資輸入金利引下説ニテ上昇ヲシタレド土用適順豐作見越シニテ農家賣米續出再度低落シ小高下ヲ演ジツ、納會セリ

明治四十三年

新春初市以來市況活氣ヲ帶ビシガ正米在荷潤澤ニシテ漸落シ春暖加ハリ所謂花見相場ノ長閑緩漫ノ商狀ヲ辿リ天災季ニ入り厄日前後ニ大ストーム襲來シ東海道、關東、東北地方稀有ナル大水害アリ俄然買氣猛烈ニシテ逐日暴騰シ新穀ノ樂觀悲觀兩説區々ニシテ波瀾ヲ繰リ返シツ、納會セ

リ

明治四十四年

發會ニ活氣ヲ示シタルモ小高下ノ商狀ヲ辿リツ、花見相場ノ時節ニ入ルヤ各地正米ノ引締リ人氣ハ人氣ヲ買ヒ順次活躍ヲ續ケタリ、七月下旬連日ノ大雨ニ作柄案ジト在荷米薄トニ各地一齊高ニ暴騰ヲ招キ市場混亂セリ、突然主務大臣ヨリ八、九兩限月ノ賣買停止命令ヲ接受ス正米ハ沸底高トナリ奔騰セシガ天災季無難ニ豐作説當マリ反動的ニ新古米出廻リ激増シ逐日低落ヲ重ネ東西ノ暴落ノ影響ニテ更ニ慘落シ不穩ノ状態ヲ現シタレバ立會ヲ停止シタリシガ其後收穫見込違ヒノ減少ニ再ビ昂上ノ步調トナリ強含ミニ納會セリ

明治四十五年

大正元年

前年ノ活氣ヲ受ケ繼ギ強氣味ニ保チ居リシガ加フルニ實收減ニテ順次昂上シ例年上半ハ平凡ナル持合ガ恒例ナルニ本年ハ大ニ活氣ヲ持續シ正米モ日毎ニ高値トナリ六月一日新甫ノ八月限ヨリ

臺灣米ヲ代用シ緩和ヲ圖リタルモ其効果ナク強硬ニ進ム一方ナレバ中旬遂ニ當中限ヲ休止シ下旬ニハ先限モ休止スルニ至レリ、七月三十日畏クモ明治大帝崩御ノ悲報ニ恐懼謹慎ノ意ヲ表シ二日間臨時休業セリ、天災季ニ入り順當稍々下向シモ九月二十三日ニハ天候險惡ト變ジ稀有ノ暴風雨ハ東海道及各地方ヲ侵シ被害甚シトノ報ニ凶作案ジニ買物多ク強硬ト變ジ農家ハ高値覺ヘニ賣惜ミ當限二十二圓二十八錢ノ高値ヲ現シ活氣アル納會ヲ告ゲタリ

大正二年

新春ハ前年ノ活氣ヲ引續タレド外米輸入麥作良好ニテ軟弱トナリシガ正米ノ賣吝ミニ下支ヘ鈍狀ヲ持續シ五、六月上向トナリシモ五月限以降臺灣米代用實施ニ氣勢轉換シ下向キ商況活氣ヲ失ヘリ天災季全ク無難ニ過ギ一般ノ不景氣ハ延テ米界ヲ軟弱ニ導キ値巾狹小シ不振ニ陥入りツ、越年セリ

大正三年

新春正月氣分ニ活氣ヲ見セシモ商勢不活潑トナリタリ、之レ臺灣米代用ト昨年大豐作ニテ在米夥多加フルニ一般不景氣ニテ日々低落シツ、アルニ因レリ、四月上旬寒冷ニ過ギ大雪アリ案ジ買モ起リシガ天候順調ニ歸シ人氣軟弱ニ傾ケリ、コノトキニ當リ歐洲大戰勃發シ氣配一變之ヲ動機ニ逐日昂騰シ活氣ヲ帶ビ來リ八月下旬ニハ我邦モ日英同盟ニヨリ宣戰ノ詔勅煥發アリ青島ニ出兵セリ、九月一日ヨリ改正取引所法ノ實施ニヨリ賣買高頓ニ數倍セリ、然レドモ天災季無難ニ過ギ豐作ト見定メラレ低落ヲ持續シ越年セリ

大正四年

新春人氣加ハリ米價調節令ヲ買ヒタルモ暫クニシテ沈靜不味ノ狀況トナレリ、米價調節令實行セラレタレドモ何分實米豐富ニシテ高値ハ米持ノ賣緊ギニ氣先キヲ挫カレ軟弱ニ傾キツ、平穩ヲ持續セリ土用前過冷モ其後照込充分豐作見込ニ賣物殺倒シ十圓四十五錢ニ暴落セリ、之レ實ニ明治三十四年以來ノ安値ナリ、十月七日ノ暴風雨ハ稻作被害アリトシ一面米價調節令ニヨリ人氣更改セラレタルト歐洲大戰ノ影響ニテ貿易大好調トナリ株生糸ノ大活躍ト共ニ躍進非凡ナルベキ氣勢ニテ納會セリ

大正五年

新市活躍豫想ハ全ク裏切ラレ實收額增收發表ニ不味低落ヲ迎リツ、アリシガ爰ニ安値ハ值惚レ買ニ上昂セシモ在米豊富ニ壓倒セラレ尙低落ノタメ各地取引所立會ヲ停止スルモノ尠カラズ天災季ニ入り天候無難ニ奔落シ晚秋日和不順收穫違作説ニ買氣起リ高値ヲ現セシガ歐洲大戰講和問題ノ報來ルヤ俄然大瓦落ヲ演ジ納會セリ

大正六年

新春講和ノ申込ハ拒絕セラレ人氣ハ強含ミナルモ實收増加ノ評判ニ上伸シ難ク鈍狀ナリシガ三月ニ入り天候不良麥違作ト金融緩漫ナルニヨリ株高トナリ阪神ノ強氣連ノ出動トナリ米界ハ投機者流ノ集注スル處トナリ相場ハ奔騰ニ奔騰ヲ重ネ未曾有ノ高値トナリ出來額激增シ全盛期ヲ出現セリ、其ノ時ニ當リ值惚レ賣ト九月一日物價調節令發布アリテ稍々下向キセシモ十月一日當地方及關東風水害ニ買氣再發シ昂騰ノ市況トナリ第二回收穫豫想減收ノ發表ニ又モ高値ヲ見セ年末ニ近ヅキ出穀出廻リ小甘ク納會セリ

大正七年

新春正米ノ強硬ト共ニ益々高値ヲ現シタリ一月下旬暴利取締令發布ニ商人恐怖シ月末立會ヲ休止ス、然レドモ正米益々強硬ニ昂上スルノミ茲ニ米價騰貴緩和策トシテ代米格付範圍擴張ノタメ下米建トシ六月限ヨリ實施セリ、四月十六日官命ニヨリ四、五兩限月ノ賣買停止セリ、而後人心一變シ政府ノ干涉ハ高値ヲ抑壓スルモノナリトノ卑屈觀念ニ陥入リタルニヤ漸次低下セリ、六月二十五日主務大臣ヨリ三期共停止ノ命令アリ月未立會ヲ爲サズ七月ニ入り正米ハ益々高ク一時賣叩キノ反動モ起リ關西ノ暴風雨ト出兵氣構ヘニ人氣沸騰市況不穩ノ有様ニ休止ノ止ムナキニ至ル偶々米騒動事件富山縣ニ端ヲ發シ關西方面ニ猖獗セシガ、八月十日名古屋ニ感染シ續テ十二日夜ニハ當地ニモ傳來シ白米商ニ一升二十五錢ニ販賣強制シ十三日白米商ハ品切レト稱シ販賣ニ應ゼザリシカバ十三日夜ニハ群集大舉シテ米商、仲買人、取引所ノ門戸ヲ破リ亂入シ、狼藉ヲ逞ウシ遂ニ取引所ニ放火セリ將ニ大事ニ至ラントセンガ有志ノ盡力ニ依リ未前ニ消防シ得タルハ不幸中ノ幸ナリシ、十四日夜ハ憲兵隊ガ軍隊ヲ補助トシ嚴重ニ防禦シタレバ平穩ニ復シ市ノ救助米行ハレ再發セザリシガ市場開始ハ不可能ナレバ同月中休止ヲ續行セリ、其後外米代用説若クハ通貨縮少説ニ急落高低ノ値巾甚大恰モ十一月ニハ歐洲休戰條約成立シ株式界ノ大奔騰ニ米界又頓ニ活氣

ヲ呈シ東米高ニ更ニ昂進ヲナシ納會セリ

大正八年

春高見越シノ相場モ外米代用ニ壓セラレ軟弱ナリシガ三月ニ入り激落ノタメ立會省略爾後株式暴騰外米產地高ト生産者賣惜ミトニ相場引立タザルモ麥作良好軍用米拂下説ニ忽チ數百丁ノ大暴落ヲナシ其後採算買ト反動的昂騰ヲ現シ七月ニ入り外米高報ニ世界的物資缺乏ノ聲ニ漸騰ヲナシ天候順調ニ軟勢ニ變リシ折柄當地方及九州方面ノ暴風雨水害ニ第一回拂下米發表モ利目ナク暴騰セリ、第二回拂下發表アリ急轉直下五百丁ノ棒下ヲ演ジタリ當時ノ人氣ハ政府ノ態度ト外米ノ高低ニヨリ左右セラレタリト云フベシ、來ル一月期ヨリ外米代用廢止ヲ宣セラレ加フルニ生糸、綿糸暴騰アリ之レニ牽制セラレ遂ニ先限五十二圓四十錢ト云フ未曾有ノ高値ヲ現シ世人ヲ驚カシメ年末ニ近ヅキ稍々緩和シ納會セリ

大正九年

歐洲大戰講和條約成立ノ新春ハ活躍ヲ呈スベキ豫想ニ反センガ漸ク硬軟腰入強ク當限納會五十

一圓〇五錢ノ未曾有ノ最高値ヲ表セリ、金融逼迫シ株綿糸暴落ニ形勢一變強氣總投ゲノ慘狀ヲ極メタリ、六月ニ入り財界惡化人氣崩レ數百丁ノ大瓦落ヲ演ジ下半年ニ入り益々財界逼迫シ回復ノ見込ナク天候順調ニ又復低落シ愈々豐作見込ミニ益々暴落シタリ、生産者ノポイコツトノ聲ニ大反撥シ波瀾重疊ノ有様ニテ本年ノ出來高増進著シク市況殷賑ヲ極メタリ

大正十年

新市人氣軟弱保合シ米穀法案實施ニテ約二百丁買ハレタルモ又低落シ沈靜ニ戻リ氣迷ノ小往來ヲ持續センガ九州水害麥下作ニ引締リヲ見セ土用入り天候纏レニ買氣旺盛ニ傾キ各地ノ高値ニ總買ノ人氣ト變リ九月廿五日夜ノ暴風雨ハ尾濃平野ヲ荒シ愈々人氣昂奮シ近頃ノ高値ヲ示セリ、米價調節説及稻作被害僅少説ニ一進一退歩調トナリ關稅撤廢殘存米充分ノ發表ニ緩和サレ次第ニ軟弱ノ商狀トナリタリ本年ノ出來高夥多市況旺盛ナル昨年ト肩比スベシ

大正十一年

昨年ノ不作ニ東西市場ニ思惑買盛ニ起リ反ツテ人氣ヲ惡化シ反動ヲ招キ不味ノ商況ヲ示スニ至

レリ思惑ハ正米ノ出廻リヲ嵩メ日一日ト低下セリ偶然ノ大降雪ニ買氣ヲ煽リ氣味モ束ノ間ニテ沈
 靜勝チ實收額五千五百万石ノ減收モ其ノ感ジナク財界ノ悲觀ニ一段不勢ヲ迎リシガ正米綿糸高ニ
 急騰土用ニ入り炎暑強ク照込充分豐作見込ミト物價調節ノ聲ニ滔々ト低落シ彼岸底ヲ示セリ關稅
 復活及政府買上アリ農家不賣同盟ニ人氣一轉廻昂騰ヲ見タルモ餘リ上伸セズ平穩トナレリ歲末利
 有買ニ反撥シ引締リ市況ニテ納會セリ

大正十二年

新年早々稀有ノ大降雪ニ正米出廻リ遲々トシ供給不足ニ加フルニ政府買上米發表ニ人氣ヲ唆リ
 タテ株式生糸高ナド好材料多ク市況硬化セリ、然レドモ所謂春ハ花見相場ト呆ケ其後正米出廻リ
 薄ニ高値ヲ報ジ昂騰シ買氣旺盛トナリ政府古米拂下ノ風説ニ伸ビ惱ミタルモ麥不作ニ正米強硬ト
 變リ八月ニハ昨年十月安値ヨリ十二圓餘ノ暴騰ナリ八月二十五日突然本所ニ解散命令ノ電報來リ
 市場閉鎖スル外道ナク取組建玉ハ全部解合ヲ以テ結了セリ行政裁判所ニソノ不當ヲ辯論シ勝訴ノ
 宣告ヲ受ケ繼續免許ヲ得タル昭和二年三月迄丁度三年七ヶ月間休業セリ、其ノ間ニ於ケル本所ノ
 市場相場ハ立タザルモ米界ノ商況ハ大勢順應ノモノナレバ略記スベシ
 本年ハ夏季ニ入ツテヨリ天候ニ恵マレ作柄ヲ樂觀サレタレバ正米出廻漸増金融難ニ株、糸安ニ

暴落ヲ演出セリ

大正十三年

新市ニハ正米不足ノ聲ニ買氣起リシガ高値ハ在米豊富トナリ賣勝ヲ喚ビ起セリ折柄アメリカノ
 排日問題ニ爲替崩落シ經濟界不振ニシテ米價モ亦二圓方急落シ入梅ノ好雨ニ一層軟化シ爾後早損
 恐レニ上向シ正米強硬秋日和ノ不順ニ收穫減豫想セラレ買進ミタルモ政府持米拂下ノ宣傳ニ反落
 步調ニ越年ス

大正十四年

春高豫想ハ財界ノ悲觀ニ伴ヒ低落セシモ在米不足ト鮮米高ニ買氣勃發セリ空入梅ノ恐レモ好雨
 ニ消へ軟化ノ折柄朝鮮大洪水ハ被害大ナリト稱セラレ天災季不順ニ買氣峻リシガ外米輸入免稅期
 間延長及拂下米發表ニ人氣一變軟化セリ其後天候順調厄日無難ニ漸落シ本年收穫豫想高六千五
 十万石ニ樂觀シ晚稻實入り申分ナク平穩裡ニ終レリ

大正十五年 昭和元年

新年ヲ迎へ株式高ニ稍々活氣ヲ見セタルモ何等好資料ナク陽春ニ入り在米増加正米安市況不振
五月ニ入り殘存米發表ニ豫想額以上ノ消費ト滿洲旱魃及臺灣蓬萊米ノ不作ニ躍進シ夏期ニ入り天
候適順ヲ賣リシガ東海道沿岸ノ暴風雨並ニ東北及北海道北陸ヨリ水害旱害冷氣ノ悲報ニ買ハレ第
一回第二回ト順次收穫豫想減少シタレバ買氣湧出シ昂上ヲ見セシガ年末ニ至リ正米產地安及鮮米
安ニ軟勢ニ終レリ

昭和二年

昨年ノ作柄豐作ニ非ラザリシカバ順次昂騰シツ、取引旺盛ナリシモ政變アリ株式界ノ暴落ノ影
響ニテ一般ニ賣リ慕ヒ下押シ安値ヲ見シガ四月上旬ニハ高値ニ躍進セリ、五月ニハ支拂猶豫令發
布休會共ノ月十三日休會明ケハ金融界安定ト正米高ニテ買走り高値ヲ現セドモ財界樂觀スル能ハ
ザルアリ正米モ日ニ軟調ヲ帯ビ寸進尺退ヲ繰返シ六月ニハ頗ル安値ニ低落セリ、梅雨期ハ旱天續
キニ人氣大ニ反撥シタレドモ天災季ノ天候良順内鮮共ニ大增收ニ脈ガラレ約千丁慘落セリ、金融
逼迫政府米價調節ノ買上米モ其効ナク毎月漸落歩調ニテ捨テ置キ難ク十二月ニ入り政府第二次買
上ニテ反動的漸騰數百丁戻シ納會ヲ告ゲタリ

昭和三年

發會以來米價値巾狭小ニシテ政府買上米ヲ動機ニ二月上旬高値トナリシガ正米ノ潤澤殘存米豐
富トニ底落ヲ示セリ、濟南事件及空入梅等ノ硬材料ニテ再ビ反撥シ六月ニ入り昂騰セシモ植付順
調正米軟弱ニツレ又復崩落シ八月土用天候照込ミ不足ニ買氣旺盛トナリ大反撥ヲ演ジ加フルニ東
都ニ買占團現レ買煽リ天井知ラズノ大暴騰トナリシガ土用明ケ天候無難作柄見直ニ買占團ノ失敗
財界不振正米豐富トニ軟材料續出シ漸落ヨリ大瓦落トナリ納會セリ

昭和四年

新年相場ハ昨年ノ實收高意想外ノ增收ニ軟調ヲ辿リ小巾保合ヲ繰返シ三月末政府米買上ゲニ稍
々上人氣ニ出デシモ正米ノ豐富ト株式暴落ノ反響ニ崩落シタレドモ正米ノ底堅キニ値頃買デ反撥
シタガ結局豐作米夥多ニ下押シタリ、六月末政變アリ金解禁實現近シト見テ米價先安見越シニテ
賣物殺倒シ大瓦落ヲ演ジタルモ值頃思ヒト利喰買物ニ下ゲ止マリ硬軟接戦ニ大中ニ往來シ再ビ賣
慕ハレ低落セリ、九月秋日和潰レニ十月ニ入り暴騰シ收穫豫想減收ト古米カスレニ政府拂下米ア
リシモ益々買慕ハレ十一月ニハ躍進ヲ極メタレドモ新穀出廻リ正米ノ軟弱ニ漸落シタリ、本年ハ

大中ニ波瀾ヲ演ジ越年セリ

五四

昭和五年

新春一月十一日金解禁斷行セラレ續テ議會解散實收額ノ増加等材料ハ益々人氣ヲ低迷總選舉終ルモ人氣ハ不引立ニテ三月ニ入り金貨流出シ生糸株ノ慘落ニ悲觀シ產地正米安ニ市價崩落シ四月始メニハ新安値ヲ現シタリ、其ノ後反動高ノ商勢ヲ迎リ五月殘存米減ニ稍々高値ニ進ミシガ環境ノ依然不良ニ一高一低六月綿、株ノ大慘落ニ拘ラズ昂騰セシガ又急落ヲ演ジ、七月ニ入り殘存米減少發表アリ端境期供給不足懸念セラレ硬軟兩派戰ニ人氣沸騰セシガ八月ニハ政府米拂下ゲト好順大豐作見込九月厄日無難十月内鮮第一回收穫豫想ハ稀有ノ大增收ヲ告ゲ恐怖的大慘落トナリ東西各市場臨時休會セシガ、本所ハ引續キ無事市場立會ヲ繼續セシハ幸ノ事ニシテ特筆スルニ足ル事績ナリ、十一月新米出荷遅レ政府買上米發表アリ買氣ヲ唆リシモ一月ニ比シ約千四百丁ノ大慘落ヲ以テ納會セリ

昭和六年

新春實收高意想外增收發表モ出廻薄ト第二回政府買上ニ昂騰セシガ鮮米ノ增收ニ需給ノ絶對樂觀サレ下押シ爾後春相場保合ニ推移シ植付後土用潰レ懸念ト所謂フーヴァー景氣ノ環境良化ニ上放レ高値ヲ示セリ、八月ニ入り天候回復シ作柄見直シト英國金貨本位停止ノ報ニ諸市場ノ一齊暴落ヲ告ゲ株式市場ノ恐慌休止等ニ賣物殺倒シ且古米豊富ノ重壓ニ落調熄マズ續落セリ、而シテ九月收穫豫想減ニ反撥氣勢トナリ第一回收穫豫想ハ内鮮米共減收發表セラレ政府第二次買上氣構ヘニ買氣擡頭シ強調ヲ持續シタリシモ買上値段案外安ニ失望下押シノ折柄政變ト同時ニ金再禁止サレインフレーション政策期待ニ買氣集中シ大奔騰シツ、大納會セリ

昭和七年

新春三月限ハ實收減豫想ニ依然強調ヲ持續シ高値ヲ現シ市中在米著シク増額ヲ示シ環境不良金融界不安ニ持米筋賣繫ギ壓セラレ高値警戒サレ漸落歩調ヨリ保合相場トナリ、五月ニ入り殘存米ノ豫想外大量ト帝都不祥事件及海外經濟界不況深刻化ニ株式ノ一段安等軟材料續出シテ瓦落、又梅雨期順調ニ下押ヲ演ゼシガ政府農村救濟案ニ買氣ヲ唆リ暴騰コノ邊ヲ天井ニ照込ミ申分ナク反落歩調トナリ、七月末硬派ノ防戰モ利カズ崩落セリ、而シテ八月ニ入り爲替安ニヨル綿、株、絲ノ激騰ト臨時議會ヲ控ヘ農村救濟期待ニ人氣沸騰シタルガ、九月厄日無難豐作見込ニ再ビ反落

五五

歩調トナリ、十月米價最低基準ノ價格ハ一般ノ豫想ヨリ安ク失望シ落潮急ナル折柄本年中三百萬石買上發表アリシガ、時ニ米穀統制問題擡頭シ專賣案サヘ叫バル、ニ及ビ杞憂シ市況憂鬱ニ陥入り稀有ノ保合ヲ辿リ、十一月中旬ニ至リ株式ノ減切高ヲ眺メ執拗ナリシ保合ヲ脱シ昂騰シ、十二月ニハ率勢米價ノ改正值巾ハ相當廣範圍ニ發表アリ且株式熱狂高等市場人氣沸騰本年中ノ最高値ヲ現シ歳末利喰下押アリテ納會セリ

昭和八年

發會ハ春高人氣ニ買氣旺盛ニシテ沸騰ノ折柄株式ノ大反落ニ挫折シ追擊賣ニ滔々ト春高人氣モ解消シ二百廿餘丁ノ大崩落ヲ演ジ二月ニハ聯盟空氣愈々惡化シ株式再ビ大瓦落トナリ投物輻輳ニ慘落セシガ行過相場ノ訂正ニ反撥シ三月ニ入り米國遂ニ金禁止ヲナシ恐怖氣分ノ安値ヲ叩キンガ人氣落付クニ至リ反騰セシモ殘存米ノ壓迫ニ仲惱ミ、四月ニハ政局案ジト政府米買換ヘ延期ニ軟調ヲ辿リ所調花見相場ニ不振ヲ告ゲ、五月ニ入ルモ環境不透明ニシテ小相場ヲ繰返シ豐作增收ノ重壓ハ米穀統制法制定ニヨル強硬政策ト共ニ自然取引ヲ萎縮セシメ季節的買上ゲモ意外ノ少量ニ失望シ本格公定米價ノ發表氣構ヘト鮮米買上ニ稍々人氣ヲ引立テ納會ヲ告ゲタリ

昭和九年

一月ニハ政府買上米、倉庫難ト鮮米壓迫懸念ニ再ビ落調トナリシ折柄米國弗價切下ノ報ニ持チ直リ、二月更ニ米穀政策ノ強力化ニ漸騰ヲ見セ三月外地米調節ノ行キ惱ミ低迷シタルガ、四月ニ入り浮動米減少ノタメ所謂有ガスレ見越ニ沈滞相場ヲ脱却シ昂騰セリ、六月ハ正米ノ強調ト空入梅案ジニ漸騰ヲ辿リ、七月初旬齋藤内閣辭職ノ政變ト株安ニ連レ低落セルガ、早場不作懸念ト正米ノ掠レニ反撥シ、八月更ニ上乘セタルガ政府季節調節米拂下ニ挫折シ、九月厄日無難ニ崩落ヲ見センガ、關西地方ニ大暴風雨ノ襲來ニ爆騰シ、十月ニ内地米收穫豫想第一回發表大減收ニ拍車ヲ加ヘラレントスル機先統制委員會ニ於ケル二百萬石買換決定ニ下押シタルモ大凶作ニヨル先高見越人氣ハ抑目買ニ累進高トナリ、十一月ニ第二回收穫豫想ハ五千七十萬石臺ニ止リ端境殘存量モ少ク推定サレテ新高値ヲ示シ、十二月ニ季節買上ナク失望シ漸落大納會ヲ告ゲタリ、要スルニ米穀統制ノ強力ナル作用ノタメ彈力味乏シク商況不振ニ流ル、ハ止ムヲ得ザル處ナルベシ

昭和十年

一月ハ正米出盛期ナルニ拘ラズ強調ニ昂進セシガ、二月ハ材料薄ニ保合ニ推移シ三月日支關係

好轉ヲ稱へ環境良好ニ騰勢ヲ示シタルモ在米ノ發表ハ豫想ヨリモ多ク仲惱ミトナリ、四月需給ノ圓滑ヲ樂觀スルトコロトナリ轉落セシモ利喰ト正米ノ下溢リニ稍々反撥シ、五月ニ入り政府古米ノ拂下發表ニ下岐レトナリ、六月ニハ空入梅ノ懸念ト政府第二次拂下延期說ニ漸騰シ、七月ハ東西高値ニ追騰シ、八月新市ハ大下鞘ニ發會セシモ正米ノ強調ト月末颱風襲來ニ昂騰セリ九月モ亦下鞘ニ發會シ軟調ヲ迎リシモ氣候不順續キ違作案ジニ續騰、十月發會ハ新高値ニ噴キ上ゲタルモ第一回收穫豫想ハ增收ノ見越シニテ反落ヲ示シタガ、十一月第二回豫想激減ヲ報ジ人氣再硬化シ十二月ニ入り統制公定値段ノ最高値ヲ豫期以上引上ゲヲ見タルト第一回七十五萬石買上發表ニ騰勢ヲ示シツ、大納會ヲ告ゲタリ、要スルニ値巾最高最低値ノ狹隘ナル範圍ニ米穀統制法施行以來市場ノ人氣逐日喪失シ衰頽ノ悲境ニ沈ミ不振ヲ極ムルニ至レリ

昭和十一年

新春一月新市發會ヨリ強調ヲ保チシガ、下旬實收發表ハ一般豫想ヨリ增收ヲ告ゲ崩落シ、二月ニ入り正米ノ強氣ニ連レ反撥氣勢トナリ、中旬ニ下押ノ折柄、下旬ニハ二・二六事件突發シ月末迄立會ヲ休止シ、三月ハ事件鎮定直後乍ラ平靜ニ發會ヲナシ、新内閣歡迎人氣ニ上仲歩調ヲ示シタルガ株式暴落ヲ眺メテ挫折シタリ、四月正米ノ強氣ニ再ビ騰勢ニ轉ジ五月更ニダリ高ヲ持續シ下旬ハ全國低溫ニ各地ノ一段高トナリ、六月空入梅懸念ノ實勢高ニ本年中ノ新高値ヲ打チタリ、七月政府拂下米說ト好順氣ニ挫折シ、八月モジリ安下這ヒ九月ニ入り三大厄日無難豐作見越シニ大下放レトナリ滔々ト近年稀ナ棒下相場ヲ演出シ、十月第一回收穫豫想ノ大增收ニ更ニ崩落シ、十一月反撥氣勢底堅ク十二月政府五十萬石買上ゲ實收減少說等強材料ヲ迎ヘテ漸騰シツ、大納會ヲ告ゲタリ

昭和十二年

新春發會ハ春高人氣ニ續騰セシガ實收意外ニ增收ト報ジ俄然轉落ヲ見タルモ正米ノ強靱ト政府買替發表ニ反撥昂騰シ、二月ニ入り人氣落付キ保合ヲ持續セリ、三月環境ノ飛躍高ニ刺戟サレ暴騰ヲ示シ、四月モ其歩調ニテ躍進セシガ、五月ニ入り環境ノ引弛ミニ連レ反落歩調トナリ、六月梅雨季モ順調下押シニ經過シ七月ニ入り北支ノ風雲急ヲ告ゲ之レヲ動機ニ下旬ニ入り急騰シ本年中ノ最高値ヲ出現シ、以後ハ漸落ヲ迎リ、八月天候良順ニ氣崩レ大慘落、九月厄日無難ニ先安見越シニ大底ヲ打チ以後軟派ノ利喰ニ上進歩調ニ轉ジ折柄應急措置法設定ノ人氣ニ益々上進シ十月モ正米ノ強氣連續シ十一月ニ入ルモ昂進歩調ヲ持續セリ、十二月モ漸進氣勢ヲ示シ本月發表スベキ公定米價ハ相當高キ豫想ニ人氣沸騰シ好況裡ニ納會セリ

昭和十三年

新春發會ハ昨年大納會其儘ニ立會ヒタリシガ、政府買上見越シニ強調ニ持直リ中旬百萬石買上發表モ既ニ織込ミ濟ニテ以後軟調ニ傾キ二月ニ入り正米ノ睨リニ上向キ、三月ニ入り躍進ヲ示ス折柄政府百萬石買上ゲニ堅調ヲ持續シ、四月軟勢ニ轉ジテ下落シ、五月好勢ニ轉ジ現在米高減少ノタメ人氣ハ常ニ強ク保合ヒ、六月入梅天候上順氣ニ軟勢ヲ辿リ、七月溫度下リ雨天勝ニ正米高ニ伴ヒ上伸、八月各地洪水アリ稻作被害懸念ニ人氣強張り漸騰セシガ、下旬百五十萬石拂下發表アリ以後下向キ、九月ハ低落安保合、十月ニ入り漸騰歩調トナリ、十一月ニハ本年中最高値ニ昇進シ、十二月ニハ人氣沈靜焦付キ商狀ヲ呈シ政府二百萬石買上發表ノ大材料モ稍々硬化ノ程度ニ納會セリ

昭和十四年

昨年末ノ沈靜人氣ニ活氣ナク、三月ニ正米ノ強硬ニ連レテ昂進以後小睨リ保合狀態ヲ續ケ値中モ僅少實ニ不動ノ商況ヲ持續セリ、當市場ハ十月一日ヨリ米穀配給統制法ノ施行ニヨリ日本米穀株式會社ニ讓渡シ閉鎖セリ

株式會社 豐橋米穀取引所役員並ニ所員氏名

(昭和十四年十月現在)

役員

理事長	中西悦太郎
理事	伊東治郎
理事	中林登平
監查役	山本勝次郎
相談役	中村麗市

所 員

支配人	所 員	全	全	全	全	全	全	全	全	全	倉庫係
新 井 實	竹 本 健 一	富 田 林 次	織 田 忠 一	石 川 春 吉	日 比 育 江	白 井 武 生	川 野 雄 次	長 田 喜 信	近 藤 三 吉		
入社年月日	明治三十八年四月一日	明治四十三年四月一日	大正二年七月一日	大正四年一月二十二日	昭和三年四月二十七日	昭和四年七月二十九日	昭和四年十一月十六日	昭和四年十二月十六日	昭和十二年六月一日	昭和三年十月二十一日	
備 考	昭和十二年六月ヨリ 囑託トシテ勤績	全	全	全	全	全	全	全	全		

手書きのメモ：
 昭和十五年十一月三十日印刷
 昭和十五年十二月二十日發行
 豊橋米穀取引所清算事務所
 豊橋市花田町四百七十二番地

不 許 複 製

昭和十五年十一月三十日印刷
昭和十五年十二月二十日發行

(非賣品)

著作人 中西悦太郎 豊橋市花田町四百七十二番地 代表清算人	印刷者 田 中 周 平 豊橋市西八町九十二番地	印刷所 三 陽 堂 豊橋市西八町九十二番地
--	-------------------------------	-----------------------------

發行所
 株式會社 豊橋米穀取引所清算事務所
 豊橋市花田町四百七十二番地

所 員

支配人	所 員	全	全	全	全	全	全	全	全	全	倉庫係
新 井 實	竹 本 健	富 田 林	織 田 忠	石 川 春	日 比 育	白 井 武	川 野 雄	長 田 喜	近 藤 三	吉	吉
入社年月日	明治三十八年四月一日	明治四十三年四月一日	大正二年七月一日	大正四年一月二十二日	昭和三年四月二十七日	昭和四年七月二十九日	昭和四年十一月十六日	昭和四年十二月十六日	昭和十二年六月一日	昭和三年十月二十一日	昭和三年十月二十一日
備 考	昭和十二年六月ヨリ 囑託トシテ勤續	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

昭和六年八月十五日

製 本 控

912 函 86 號

年 月 日

豊橋米穀取引所誌

豊橋米穀取引所清算事務所

備 考

發行所

豊橋市花田町四百七十二番戸

株式會社 豊橋米穀取引所清算事務所

912
86

終